



現代の母親の抱える育児不安・ストレス要因に対する 育児グループの効果に関する研究

松田, 宣子

(Citation)

科研報告書, 15592317

(Issue Date)

2006-03

(Resource Type)

research report

(Version)

Accepted Manuscript

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/K0001812>



平成15年度～平成17年度科学研究費補助金
(基盤研究(C・2)) 研究成果報告書

15592317

現代の母親の抱える育児不安・ストレス要因に対する
育児グループの効果に関する研究

研究代表者 松田 宣子
神戸大学医学部保健学科教授

平成18年3月

<はしがき>

育児不安・ストレスは子ども虐待の要因につながるといわれており、母子保健分野の重要な課題となっている。

子育ては昔からごく普通の生活の中で行われてきたものであり、そこには現在のような育児指導はもちろん育児情報というものは存在しなかったが、育児不安が現在のように深刻化しなかった背景には、他世代家族や多様な階層関係、近隣関係の中で母親だけに限定されない複相的な育児が行われてきたからと言える（網野武博、1993）。そこでは子育てが日常、普通に見られる行為であり、女性は子どもを生む前に育児のシミュレーションといえるものを経験し、出産後は地域におけるプライベートな段階での相互援助的な子育て支援を受けてきたと考えられる。

しかし今日の核家族化や一人暮らしの増加、近隣関係の希薄化は、育児を両親、特に母親のみに限定された一面的なものにし、近隣でのプライベートな育児支援の体制を失わせ、育児不安を深刻化する結果となった。このような育児不安の深刻化を防ぐためには、今日的な意味で育児を複相化し、地域の様々な段階育児支援体制を整備し、母親たちに多様な人間関係の場を提供することが必要であるが、そのようなものの一つとして母親同士が仲間集団である子育てグループが注目されている。

本研究は地域で子育てをしている母親の育児不安・ストレスの要因を把握し、育児不安・ストレス要因測定尺度を開発し、育児グループ活動との関連を検討し、その効果を明らかにすることである。

地域で日頃から子育て支援をしている保健医療関係者の皆様の今後の活動の参考にしていただければ幸いです。

謝 辞

この研究は平成15年度～平成17年度科学研究費補助金（基礎研究（C・2））「現代の母親の抱える育児不安・ストレス要因に対する育児グループの効果に関する研究」を受けて実施したものであり、感謝の意を表します。3年間の研究過程で、兵庫県内の保健医療関係者及び本学教員・大学院生など多くの方々のお世話になりました。研究にご協力頂いた兵庫県内の保健医療行政の組織代表者、保健師、育児グループの代表者・メンバーの方々に厚く御礼を申し上げます。

代表者 松田 宣子

平成18年3月

研 究 組 織

研究代表者 : 松田 宣子 (神戸大学医学部教授)
 研究分担者 : 高田 哲 (神戸大学医学部教授)
 研究分担者 : 坂間 伊津美 (茨城キリスト教大学看護学部助教授)

研究協力施設

川西市保健福祉部
 姫路市保健所
 姫路市すこやかセンター
 三木市総合福祉センター
 神戸市北区保健福祉部
 神戸市須磨区保健福祉部
 神戸市須磨区北須磨支所保健福祉部
 三田市保健センター
 伊丹市保健センター
 川西市子育てグループ
 姫路市子育てグループ
 神戸市北区子育てグループ
 神戸市須磨区子育てグループ
 神戸市須磨区北須磨支所子育てグループ

交付決定額 (配分額)

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合 計
平成15年度	1,400,000	0	1,400,000
平成16年度	700,000	0	700,000
平成17年度	900,000	0	900,000
総 計	3,000,000	0	3,000,000

研 究 発 表

(1) 学会誌等

松田宣子、坂間伊津美：育児グループに参加している母親の育児不安・ストレスの分析、日本公衆衛生学会誌、51(10)、2004

松田宣子、坂間伊津美：育児不安・ストレス測定及び要因に関する研究、日本公衆衛生学会誌、52(8)、2005

坂間伊津美、松田宣子：乳児を育てる母親の育児不安・ストレスの要因に関する研究—育児困難感尺度を用いて—、日本母性衛生学会誌（投稿中）

(2) 口頭発表

松田宣子、坂間伊津美：育児グループに参加している母親の育児不安・ストレスの分析、第63回日本公衆衛生学会、2004

松田宣子、坂間伊津美：育児不安・ストレス測定及び要因に関する研究、第64回日本公衆衛生学会、2005

講 演 等

松田宣子：おせっかいのすすめ—地域における子育て支援—、神戸市灘区保健福祉部主催、講演、平成16年3月

松田宣子：子育てあれこれ—地域における子育て支援—、神戸市北須磨保育センター母の会主催、講演、平成16年11月

目次

I. 研究の概要、総括	
1. 研究目的および研究の位置づけ	1
2. 研究計画および方法	2
II. 研究報告	
1. 平成15年度 研究報告	
1) 文献検討	5
2) 育児不安、ストレス構造に関する研究	12
2. 平成16年度 研究報告	
育児不安、ストレス測定尺度および関連要因に関する研究	15
3. 平成17年度 研究報告	
育児グループ効果に関する研究	41
III. おわりに	77
IV. 付録	79

I. 研究の概要

1. 研究目的および研究の位置づけ

現代の母親は、核家族化も進行し身近にサポートを得られなくなっており、孤立化し様々な育児不安・ストレスを抱え、虐待の一因となっていると言われている。研究対象地域の子育てをしている母親の育児不安・ストレス要因を明らかにし、要因測定尺度を開発し、育児グループ活動との関連を検討し、その効果を明らかにする。

A：研究対象地域における子育てをしている母親の育児不安・ストレスの要因をグランデッドセオリ（ストラウス・グレーザー）を用いて質的分析を行い抽出する。

B：Aで明らかになった育児不安・ストレスの要因の測定尺度を開発する。

C：研究対象地域における育児グループに参加している母親あるいは保護者にグランデッドセオリ（ストラウス・グレーザー）を用いて育児グループ活動での効果を分析する。

D：Cのグランデッドセオリアプローチで得られた育児グループの効果をオープンコード化し、効果アセスメントツールを作成する。

E：Bの育児不安・ストレス要因測定尺度とDの育児グループ効果アセスメントツールを用いて無作為抽出で調査を行い相関関連をみるためにSPSSを用いて統計的分析を行い、グループ活動の効果を客観的に明らかにする。

① 本研究の学術的特色は、フィールド研究である。現在の母子保健の緊急的な課題である子育ての母親の育児不安・ストレスの要因を明らかにし、その対処として今有効といわれている育児グループ活動の効果を検討し、今後育児支援・虐待防止に即活用できる実践研究である。また、独創的な点は育児不安・ストレスは現在の問題として取り上げられているが、その実体は詳細に捉えられていない。今回質的研究アプローチを用いて細かく記述し、オープンコード化し、育児不安・ストレスの要因やグループ活動の効果を抽出し、その後無作為抽出で量的研究を組み合わせ、より綿密な研究方法を取っている。

② 国内外における本研究の位置づけであるが、育児ストレスとの関連から児童虐待についての疫学的研究や治療的研究、類型学的研究は多く行われているが、子育て中の母親の育児不安・ストレス要因の分析やその対処としての育児グループの効果との関連を検討している研究は今現在ほとんどみられない。

育児支援は今日本の母子保健活動として緊急かつ解決をしていく必要のある課題であり、重要な研究と考える。

2. 研究計画および方法

(平成15年度)

計画：

1. 研究計画書の作成を行う。
2. 研究対象地域における子育てをしている母親の育児不安・ストレスの要因をフォーカスグループインタビューを行い抽出する。
3. 研究対象地域における子育てをしている母親の育児不安・ストレスの要因を、グランデッドセオリ（ストラウス・グレーザー）を用いて質的分析を行い抽出する。
4. 1で明らかになった育児不安・ストレスの要因の測定尺度を作成する。

方法：

1. 研究計画書の作成
2. 研究対象者15名に対して育児不安・ストレスについて半構成的インタビューを行いデータ収集・分析を行う。
3. 主要設備との関連であるが、インタビュー内容の録音にマイクロカセットレコーダーを用いる。また、データを逐語録に起こすのにノートパソコンに入力し、プリンターで印刷し資料を作成する。連続比較分析時に質的研究のスーパーバイザーの指導を受けた。
4. 研究代表者、研究分担者の相互関係

研究代表者

研究分担者

研究計画案枠組み作成

研究計画案への意見

調査票及び研究方法の提案

調査票の作成、研究方法の意見

研究対象への研究依頼

データ収集・逐語録作成、データ分析

データ収集・分析

研究発表

(平成16年度)

計画：

1. 研究対象地域における育児グループに参加している母親あるいは保護者にグランデッドセオリ（ストラウス・グレーザー）を用いて育児グループ活動での効果を分析する。
2. 1のグランデッドセオリアプローチで得られた育児グループの効果をオープンコード化し、効果アセスメントツールを作成する。

方法：

1. 育児グループに参加している母親及び保護者15名に対して半構成的インタビューを行いデータ収集・分析を行う。
2. 主要設備との関連であるが、インタビュー内容の録音にマイクロカセットレコーダーを用いる。また、データを逐語録に起こすのにノートパソコンに入力し、プリンターで印刷し資料を作成する。連続比較分析時に質的研究のスーパーバイザーの指導を受けた。
3. 研究代表者、研究分担者との相互関係

研究代表者

調査票及び研究方法の提案

研究対象への研究依頼

データ収集・分析

研究分担者

調査票の作成、研究方法の意見

データ収集・逐語録作成、データ分析

研究発表

(平成17年度)

計画：

育児不安・ストレス要因測定尺度と育児グループ効果アセスメントツールを用いて無作為抽出で調査を行い相関関係をみるためにSSPSを用いて統計的分析を行い、グループ活動の効果を客観的に明らかにする。

方法：

1. 作成した育児不安・ストレス要因測定尺度と育児グループ効果アセスメントツールの調査票を用いて近畿都道府県内に無作為抽出で郵送調査を行う。
2. 主要設備との関係であるが、調査票の集計及び統計的分析に統計ソフトSPSSを用いて行う。
3. 研究代表者、研究分担者との相互関係

研究代表者

研究調査依頼

調査票の作成・実施

SPSSを用いてのデータ入力・分析

研究発表

論文作成

研究分担者

研究調査票の作成・調査実施

SPSSを用いてのデータ入力・分析

研究論文についての意見

平成15年度

研究報告

平成15年度 研究報告

1) 文献検討

「育児不安」「育児ストレス」をキーワードとして1990年～2003年まで医学中央雑誌、Medlineで文献検索した。その結果が表1に示したとおりである。大日向らは「育児感情」を測り、初産婦と経産婦では育児感情及び影響要因が異なっていると述べている。

「育児不安」に関する研究は、乳幼児健診時にアンケート調査で育児不安との関連要因を検討しているものが多くあり、また育児不安測定尺度を用いて測定し、支援方法を検討しているものもあった。

また、「育児ストレス」に関する研究は、育児ストレスの構造に関する研究、育児ストレスの測定尺度の開発や育児ストレスとソーシャルサポート、育児グループ・母親クラブとの関連を検討しており、育児ストレスへの支援のあり方を模索していた。

表 1

育児不安・ストレスに関する文献

No	論文テーマ	著者名	掲載雑誌・図書	要 旨
1	産後の母親の育児不安及び育児に対する感情とその影響要因 4ヶ月育児の現状から今後の助産婦の援助を考える	大西由希子	看護総合科学研究会 誌 2(2)、24-37、1999	4ヶ月健診で手渡し→郵送によるアンケート。配布 400、有効回答 178 (44.5%)。産後 1ヶ月間の育児不安は、母乳不足、先天性疾患や突然死への不安、泣きへの対応、育てられるか不安の順。経産婦では上の子との関係、体の回復への心配が挙げられた。4ヶ月までの育児の負担は、泣きぐずりへの対応、夜間早朝の授乳、家事との両立の順。育児感情には、夫との関係、子ども数(2人以上)、子どもとの関係(抜いにくい子との認識)が影響要因。 ■育児感情…大日向、今井の尺度を参考にした 22 項目
2	地域(都市化進行・農山村)及び家族形態間比較からみた母親の育児不安に関する検討～性別役割観・伝統的規範へのとらわれに重点を置いて～	加藤和美	公衆衛生研究 49(4)、 380、2000	3 歳児の母親 576 名(都市化地域 243 名、農山村地域 333 名)への郵送によるアンケート。有効回答 362 (62.8%)。地域、家族形態での育児不安に有意差はなかった。義父母同居は実父母同居より育児不安が高かった。居場所感が低い、育児方針の違いがある(農山村、義父母同居)ほど育児不安が高かった。 ■育児不安尺度…川井による育児不安尺度 29 項目
3	父親の育児参加と母親の育児不安との関連 204 組の夫婦のアンケート調査より	北村愛子、佐鹿孝子、大久保ひろ美、佐藤はつ子	山梨県立看護大学短期大学部紀要 5(1)、 61-76、2000	父親がよくするのは入浴の世話、子どもとの遊び、食事の世話の順。70%以上の父親は、育児を「できるときは当然・たまにはするべき」と思っていた。育児への参加意識が高い父親ほど育児参加度が高かった。父親の育児参加度は、母親の父親に対する育児協力満足度に関連があり、協力が満足している場合は育児不安が少なかった。
4	育児ストレス構造の研究	清水嘉子、西田公昭	日本看護研究学会雑誌 23(5)、55-67、2000	保健センターの健診・教室来所者への手渡し→郵送式アンケート調査にて有効回答 297 (59.4%)。また保育園での持参式アンケート調査にて有効回答 226 (62.7%)。計 523 名を分析。育児ストレスの構造として 8 因子が抽出された。①子どもに対するコントロール不可能感、②育児への苦手意識、③夫の育児態度に対する不満、④育児環境の不備に対する不満、⑤周囲の人々の協力や理解不足、⑥アイデンティティ喪失に対する脅威、⑦子どもの発達に対する懸念、⑧体力・体調の不良。育児ストレスと子ども数、就労状況、家族形態、育児者や末子の年齢との関連がみられた。 ■育児ストレス…独自予備調査から得た 130 項目
5	育児期にある母親に対するソーシャルサポートと育児ストレスとの関連	荒木美幸、大石和代、岩本宏子、他 4 名	長崎大学医療技術短期大学部紀要 14(1)、 89-95、2001	保健センター(2ヶ所)の 1 歳 6 ヶ月健診を受ける 290 名の母親を対象に、持参法によるアンケート調査。有効回答 226 名。目的は低ストレス群と高ストレス群でのソーシャルサポートの比較。サポート提

表1

育児不安・ストレスに関する文献

				<p>供者については、2群とも夫と実母から心理的・手段的サポートを受けており、今後これらのサポートを期待していた。サポート提供者数及び種類は2群間での差はなかった。専門職からのサポートについては、両群とも医師や保母からの心理的サポートを受けており、様々な職種からの心理的・手段的サポートを望んでいた。保母から心理的サポートを受けている母親は低ストレス群に多く、保健婦からの心理的サポートを希望するのは高ストレス群の母親に多かった。</p> <p>■育児ストレス尺度…加藤ら考案の18項目を使用。</p>
6	育児情報の活用意識・行動と育児不安の関連性	山岡テイ	チャイルド・ヘルス 4(12)、56-59、2001	<p>1～6歳までの就園児をもつ母親に園通しでの郵送法・留め置き法によりアンケート調査。有効回答は1704(70.1%)。母親が活用する情報源は、近所の友人、夫、園の先生、実母の順。また、最も信頼する情報源は、夫、近所の友人、実母、園の先生と順位は入れ替わるが同じ情報源。ファミリー意識、独自性、親近性、経験豊富、専門性など、母親は明確な情報収集意識を持って情報源を選定していた。情報量が増えると混乱する反面、知りたい情報を多く所有することには積極的な傾向。相談機関やインターネットへの個別アクセスの活用度と育児不安とは関連あり。</p>
7	育児不安・困難に関する幼稚園児の母親へのアンケート調査	田野稔郎、高橋雄一、森田秀子	神奈川県精神医学会 誌51号、57-62、2001	<p>幼稚園児の母親へのアンケート調査。有効回答331名(64.5%)。妊娠中または産後に気分体調に変化が見られたものはそれぞれ20.2%、40.8%。大多数の母親は育児を楽しんでいるが、少ない幸せを感じているが、少数ながら育児困難に陥るものがある。単純集計のみ。</p>
8	2人目の子どもを育てている母親は育児不安が軽いか	吉田弘道、山中龍宏、巻野悟郎、他3名	チャイルド・ヘルス 4(10)、766-769、2001	<p>1人目の子を育てている母親725名、2人目・3人目の子を育てている母親208名に育児不安尺度の試作項目を用いて調査。2人目の母親に得点が高い項目が多くみられた。月齢が高くなるにつれて差のある項目数が増加していた。2人目の母親は、育児満足、夫のサポート、相談相手の得点が高かった。</p>
9	香川県における3歳児をもつ母親の育児ストレス構造—育児ストレス尺度を用いて—	植村裕子、三浦浩美、野口純子、他4名	香川母性衛生学会誌 2(1)、62-68、2002	<p>3歳児健診に来所した母親513名を対象にアンケート調査。有効回答279。その場または郵送での回収。ストレスに関して、因子分析で、①自分の時間が少ないこと、②子どもの聞き分けのない行動、③一人きりで子育てをしていること、④夫の無理解、非協力的態度、⑤子どもへの対応・しつけがわからないこと、⑥子どもの食行動における問題、⑦子どもにまわりつかれること、の7因子を抽出。</p> <p>■育児ストレス尺度…日下部ら開発の31項目を使用。</p>

表 1

育児不安・ストレスに関する文献

10	育児不安に影響を与える要因についての縦断的研究—予期不安尺度と期待感尺度の作成—	興石薫	小児保健研究 61(4)、686-691、2002	対象は、産後早期の母親 91 名 (→1 ヶ月 80 名、4 ヶ月 70 名、8 ヶ月 56 名まで縦断的調査)、保健所に予防接種で来所した 3~4 ヶ月児の母親 276 名 (回収率 68.8%、190 名) の計 367 名。尺度の分析対象は 266 名。妊娠中の予期不安、期待感や育児不安に大きな影響を与えない。妊娠中の自尊感情や全般的対処傾向は育児不安と中程度の相関あり。育児に対する対処不能感はその気質に大きく影響を受ける。自己注目傾向の高い母親は対処不能感が高まる。育児不安も高まるが、注目傾向が低いと対処不能感と育児不安は結びつかない。 ■ 育児不安尺度…田中が作成した 10 項目
11	母親の子育て不安の程度と母親クラブ活動との関連性に関する考察	八重樫牧子	川崎医療福祉学会誌 12(1)、45-57、2002	母親クラブ会員 631 名への留め置き法による調査。有効回答率 63.7% (402 名)。不安高・中間・低 3 群に分けて分析。母親・子どもの年齢、子どもの人数、就労形態、家族形態、住居形態と子育て不安との関連なし。居住年数、近所・友人付き合いとは関連あり。夫の子育て参加との関連はないが、精神的支えは関連あり。情報源が実父母・義父母だと不安が低い。性役割分業意識に同感していると不安が低い。母親クラブの中に親しい友人がいる人、子育てグループに満足している人は不安が低い。子育て不安の内容は子どもの年齢により異なるため、年齢に対応した活動が必要。 ■ 子育て不安…川井らの 29 項目
12	【総説】 家庭という“密室”での育児	長坂典子	こころの科学 103(5)、50-56、2002	電話相談は専業主婦の相談、3 ヶ月くらいまでの乳児に関する相談 (授乳、皮膚症状、睡眠や生活リズム、排便、泣き) が多い。 育児不安への影響要因：初産婦、人よりも本に不安解決の解答を求める人。(社会要因) 核家族化、地縁の希薄化、兄弟がいない、周りに子どもがいない、育児体験がない、住宅の密室化、(家族の支援) 姑の一言一言が引っかかる、夫が協力してくれずと感じる、夫とのコミュニケーションに満足を感じず、実母や姑からの支援が受けられず相談できない、(母親要因) 母親が身体・精神的に不安定、自分の時間をもてない、経済的問題、完璧主義、責任を 1 人で抱える、(子ども要因) 障害、育てにくい子、望まれなかった子、月齢や年齢。
13	夫婦の意識が相互の育児不安に及ぼす影響	石橋君子、大坪智美、正崎仁恵、他 7 名	母性衛生 43(4)、541-548、2002	1 歳 6 ヶ月までの健診に訪れた夫婦を対象としたアンケート調査。郵送で回収。配布数 356 組、有効回答 200 組 (60.7%)。育児不安は両親にみられ、母親の不安が高いと父親の不安

表 1

育児不安・ストレスに関する文献

				<p>度も有意に高い。育児役割分担の父親の考え方(夫婦で分担するもの)が母親の不安度を低めた。生活への満足、家庭内のコミュニケーション充実が夫婦相互の育児不安を軽減した。</p> <p>■ 育児不安尺度…牧野の尺度を中心に作成した 16 項目</p> <p>母親 290 名への郵送アンケート調査。有効回答 150 名 (51.7%)。マウス要素としては、母親の孤立、父親 (家族) のサポート不足、育児知識の不足、自分の育児方法が正しいかどうかと不安があった。単純集計のみ。</p>
14	<p>母親が育児に対して感じる育児ストレスへつながるマウス要素</p>	<p>大畠祐子、櫻井香織、妹尾悦子、他 3 名</p>	<p>茨城県母性衛生学会誌 22 号、50-53、2002</p>	
15	<p>働く母親の育児不安 夫の育児サポート意識との関連</p>	<p>中添和代、舟越和代、白石裕子</p>	<p>地域環境保健福祉研究 6(2)、39-46、2003</p>	<p>妻が望む夫の育児サポート意識を調査し、育児不安との関連性を明らかにする目的。公立保育所を利用している親のうち持参法によるアンケートの有効回答を得た 191 組を分析。回収率 62%。育児不安の高い妻は、夫の育児サポートを否定的に評価していた。育児不安高群で、夫婦間の意識に有意差があったのは、子育ては母親の仕事だと思っている、妻の子育ての大変さを理解している、家庭での不満や悩みを真剣に聞く、妻が体調不良の時に家事や育児の手助けをするの 4 項目。また、子育てからの逃避・解放願望や子どもへの虐待傾向、子どもへの対応についての後悔・反省・自己嫌悪等を感じていた。育児不安の低い妻は、夫の育児サポートを肯定的に評価し、子育てへの現実的対応のできる対処能力を持っていた。育児不安の高低と子どもの数、相談相手の有無は有意な関連があった。</p> <p>■ 育児不安…吉田らの育児不安質問紙を参考に作成した 12 項目</p>
16	<p>多文化子育て調査報告書 日本の母親の育児不安と育児情報に関する子育て調査</p>	<p>田原卓浩</p>	<p>チャイルド・ヘルス 6(2)、144-146、2003</p>	<p>しつけ・教育情報環境と育児不安の関連性の検証が目的。1～6 歳までの就園児をもつ母親に園通しでの郵送法・留め置き法によりアンケート調査。有効回答は 1704 (70.1%)。常勤の母親は専業主婦よりも不安感が低い。構築された育児不安スケール：「発達・自立へのしつけ不安感」→「育児劣等感」→「教育不安感」「子育て焦燥感」→「現状不満感」(母親としての自分に不満足)→「初体験な関わり」。情報化時代の母親は様々な情報源を使い分けている。子育て仲間意識は専業主婦の方が高い。子育て仲間への親和性が高いと育児不安は低い。</p> <p>■ 育児不安…出典は不明</p>
17	<p>母親の育児に対する信念と育児ストレスの関係</p>	<p>清水嘉子</p>	<p>小児保健研究 62(5)、558-568、2003</p>	<p>保健センターおよび保育園でのアンケート。配布 860、有効回答 515 (59.9%)。「子どもに対して完璧な母親でなければならぬ」の信念は、2人以上の子どもを持つ母親は否定的、</p>

表 1

育児不安・ストレスに関する文献

				「子育ては自分にとって価値がある」の信念は核家族の母親が肯定的、「子育ては女の仕事だ」の信念は有職者が否定的であった。6項目の信念について肯定傾向の群は有職者に有意に多かった。 ■育児ストレス…著者作成の8因子124項目
18	1歳6ヶ月児を持つ両親の育児ストレスとコピング・スタイル	三国久美、深山智代、広瀬たい子、他4名	日本看護研究学会雑誌 26(4)、31-43、2003	1歳6ヶ月児の両親 316組への郵送調査。有効回収 191組 (60.4%)。PSI 総得点、親自身に関わるストレスは母が父より高く、「親を喜ばせる反応が少ない」「子どもに愛着を感じにくい」は父が高かった。父では、第2子以降、母の学歴(高卒)、子どもの健康状態良好が PSI を低め、母では、子どもの健康状態良好、第2子以降、有職が PSI を低めていた。コピング・スタイルに父母間の差はみられず、父よりも育児ストレスを強く感じているものは情動中心コピングをより多く用いていた。 ■育児ストレス…奈良間らによる日本版 PSI (78項目)
19	沖縄県の3~5ヶ月児を持つ母親の育児不安(I) 母親の属性と夫婦関係との関連で	嘉数朝子、服部章吾、玉城三枝子、他22名	沖縄の小児保健 30号、3-9、2003	3~5ヶ月児を持つ母親 88名を対象に聞き取り調査。育児不安と乳幼児との接触経験の有無、夫の健康状態に有意な関連あり。夫の実際的な家事・育児負担頻度とは関連はなかったが、夫の家事・育児への満足度は有意な相関があった。精神的サポートのうち、子育ての大変さの理解、ストレス発散への配慮、子育てへの共感が有意な相関があった。 ■育児不安尺度…牧野の14項目
20	3~5ヶ月児を持つ母親の育児不安II - 母親の育児上の心配事と保健医療関係者の育児支援の検討 -	玉城三枝子、古謝タカ子、照屋清子、他22名	沖縄の小児保健 30号、10-17、2003	3~5ヶ月児を持つ母親 88名を対象に聞き取り調査。育児上の心配事は、月齢により減少するもの(黄疸、臍、湿疹、かぶれ、頭の形、夜泣き)、嘔吐、母乳不足、泣く理由がわからない、夜泣き)、増加するもの(体重の増え方、便、鼻汁や鼻閉、発熱、首すわり、離乳食、予防接種)、変化のないもの(洋服の選び方、あやし方・遊ばせ方)に分かれる。心配事の数は初産婦に有意に多い。育児不安尺度と心配事の数には有意差なし。保健医療関係者からアドバイスを必要とした時期は1ヶ月が多い。
21	岩手県における育児ストレスの変化とそれにかかわる要因 3年前の調査との比較から	相墨生恵、荒木暁子、兼松百合子、他3名	岩手県立大学看護学部紀要 5巻、1-12、2003	0~3歳児を持つ母親の育児ストレスとソーシャルサポートについて 1995年と1998年の比較。育児ストレス及び隣人のサポートが減少。前回に育児ストレスを高める要因であった核家族、主婦は今回有意差なし。第1子、1歳以上、30歳未満は今回も有意差がみられた。
22	乳幼児を持つ母親のC.A.S.による精神健康度評価 「安定群」「高不安群」の比較とその関連要因	巽あさみ、大西文子	医学と生物 学 146(4)、51-56、2003	3歳までの乳幼児をもつ母親 200名を対象。回答 151名。C.A.S.不安診断検査において、幼児をもつ母親の約 13.6%

表 1

育児不安・ストレスに関する文献

				が高不安群。高不安群の母親は育児不安を感じているもの、心配事があると感じているもの、育児相談・電話相談を利用しているものが有意に多かった。高不安群は、望んでいた妊娠でも、妊娠が嬉しいというより不安であったと感じていた。
23	子どもの発達段階別にみた母親の育児不安、自我状態 期と幼児期の比較を通して	乳児	山下美弥、尾方美智子	香川医科大学看護学雑誌 7(1)、73-79、2003
24	幼児をもつ母親の育児不安と対処行動		谷本公重、山下美弥、佐々木睦子、他7名	香川医科大学看護学雑誌 7(1)、65-72、2003

2) 研究

(1) 研究目的

育児グループに参加している母親の育児不安、ストレス構造を明らかにする。

(2) 研究方法

対象：A市4ヶ所で行われている育児グループに参加している子育て中の母親である。

方法：育児グループの会合終了後に研究の主旨および方法を説明し、研究への参加の依頼を行い、同意の得られた乳児を持っている母親である。データ収集方法は、母親を5～6人のフォーカスグループを作り、半構成的質問紙を用いてインタビューを行った。質問項目は、「育児不安・ストレスの要因、程度」、「対処方法」、「育児への思い」、「ソーシャルサポート」「育児グループ参加の効果」である。できるだけ自由に語ってもらった内容は承諾を得て録音した。

分析：逐語録を作成し、継続的比較分析を研究者2名で行った。

(3) 研究結果

育児不安・ストレスとして「育児方法がわからない」が最も多くあり、具体的には①離乳食の作り方②夜泣きへの対応③体重が増えないなどで育児書や情報と比較し、うまく育児ができないと語っていた。次いで「育児への責任感で押しつぶされそうになる」であり①体重が増えない②発達が遅い③病気があるかもしれない、と述べていた。さらに「一日中子どもと向き合っているといらいらする」「気分転換ができない」など密室での育児のストレスが見られた。

育児不安・ストレスの対処方法として、①夫が精神的にサポートしてくれる、②家事など負担してくれる、③親が近くにいる時には見てくれるので、買い物や友人と会える、など家族や友人、周囲のサポートがあげられていた。

育児への思いは「子どもの成長が刻々と変化して楽しみ」、「笑顔がかわいく、励みになる」、「自分が成長できる」と肯定的な回答と「同じことの繰り返し」、「虚しい」、「つらい」「しんどい」「一人で育児している」、「孤独感」と否定的な回答が見られた。

ソーシャルサポートは、友人や育児サークルが「何でも相談できる」、「同じ気持ちになれる」「具体的なことが話せる」と語られた。

育児グループ参加の効果については、「同じ立場で気持ちの共有ができる」、「何でも具体的な相談から解決できる」、「いろいろな情報が得られる」、「近所の方が多くいるので、友達になれる」など育児不安・ストレスの解消に大いに有効であるとの発言が多くみられた。

(4) 結論

育児不安・ストレスは「育児方法がわからない」、「密室育児」、「情報の氾濫からくる迷いや比較」などであり、対処として「育児サークルや家族などのソーシャルサポートが有効」であることがわかった。

資料1

インタビューガイド

1. 目的

子育てをしている母親の育児不安・ストレスを話してもらい、現状の育児不安・ストレス要因を把握し、育児不安・ストレス測定尺度を作成するのに活用する。

2. 対象

川西市の赤ちゃん交流会に参加している母親で、本インタビューの目的に賛同していただき、交流会の終了後 30 分～40 分グループインタビューにご協力いただける母親、その中で後日再度個別インタビュー可能な方 3～4 名

3. 内容

- 1) 育児への思い
- 2) 育児不安のある（あった）時期と内容は？
- 3) 育児ストレスのある（あった）時期と内容は？
- 4) 育児不安・ストレスをどのように解決しましたか？相談相手はだれですか？

4. 方法

- 1) 交流会で、本調査の目的、インタビューの目的、方法を説明する。
- 2) 交流会終了後調査に賛同し、協力していただける母親 6～8 名に対して、上記の内容でグループインタビューを行う。
- 3) 話している内容は正確に把握したいのでテープに録音し、後日逐語録に起こして分析する。インタビュー中もメモをとる。この内容は本研究にのみ用いて、研究終了後は破棄する。
- 4) グループインタビューにご協力いただいた方で、さらに後日再度個別インタビューにご協力いただける方を 3～4 人依頼する。

留意点：静かな部屋でインタビューを行う。

調査研究責任者：松田 宣子

神戸大学 医学部 保健学科 地域看護学講座

連絡先：神戸市須磨区友が丘 7 丁目 10-2 TEL&FAX078-796-4530

平成16年度

研究報告

乳児を育てる母親の育児不安・ストレスの要因に関する研究
— 育児困難感尺度を用いて —

坂間 伊津美 (茨城キリスト教大学看護学部)
松田 宣子 (神戸大学医学部保健学科)

I 緒言

育児への不安・ストレスが、主として虐待との関連で社会的に注視されるようになってからすでに久しい。これまで、個人、家族、あるいは地域の養育力向上に向けた様々な育児支援策が行われてきている。しかし、虐待の相談件数は年々増加の一途をたどり、育児期の母親の心理的健康が改善しているとは言い難い現状にあるため、育児不安・ストレスの現状分析と、実際的な支援につなげられる研究がさらに必要である。

育児不安・ストレスについての先行研究は、1) 不安・ストレスの内容や程度、2) 不安・ストレスの関連要因、3) 不安・ストレスへのコーピングなどに大別できる。

不安・ストレスの内容に関しては、産後 1 ヶ月は母乳不足、先天性疾患や突然死への不安、泣きへの対応、育てられるか不安との内容が多い¹⁾、1歳2ヶ月未満の児をもつ母親では児の身体症状、栄養、生活リズムの順で不安が多い²⁾ とする報告のほか、植村らによる3歳児の母親の育児ストレスを分析した調査³⁾ などがある。不安・ストレスの要因としては、職業の有無、家族形態、夫のサポート、育児情報源、育児サークル参加の有無などとの関連^{4~7)} がこれまでの研究により示唆されている。不安・ストレスへのコーピングに関しては、育児ストレスを強く感じている母親・父親ともに情動中心コーピングを用いることが多い⁸⁾、育児不安が強い母親の対処行動は、問題回避・発散逃避行動が多く、問題解決に有効な対処行動への支援が必要である⁹⁾ 等の報告がある。

これまでの研究において、育児不安・ストレスの測定方法をみると、牧野の育児不安尺度^{10) 11)}、川井らの育児困難感尺度^{6) 12)}、吉田らの育児不安スクリーニング尺度¹³⁾、日本語版 Parenting Stress Index^{8) 14)}、あるいは研究者各自が作成した尺度などが様々に用いられている。このことは、育児不安・ストレスの現状比較分析をしにくい一因となっていると考えられる。

そこで本研究は、育児困難感尺度を主体とする子ども総研式育児支援質問紙を用いて、乳児を育てている母親の育児不安・ストレスを測定するとともに、その要因を明らかにすることを目的とした。

子ども総研式育児支援質問紙は、日本子ども家庭総合研究所の川井らが、育児不安・ストレスの本態を“育児困難感”として、その要因も合わせて測定する質問紙を開発してきた成果^{15~17)} をまとめたものであり、信頼性、妥当性が検証されている。今回、この質問紙を用いた理由は、乳幼児健診など臨床場面での活用を想定して年齢ごとに区別して作成さ

れていること、利用や判断の基準が明示されていることによる。

II 研究方法

1. 調査の対象と方法

A 県内 7 市町村保健センターにおいて、4 ヶ月児・9 ヶ月児健診を受ける乳児の母親 347 人を調査の対象として、2003 年 12 月～2004 年 2 月に調査を行った。調査方法は、1) 予め郵送した調査票を健診時に回収する、2) 健診時に調査票を手渡し、後日郵送で回収する、3) 健診時に調査票に沿って聞き取りを行う、との方法を、各保健センターの状況に応じて選択して行った。266 人から回答を得て、回答に不備のあった 5 人を除く 261 人を有効回答とした（有効回収率 75.2%）。

2. 調査項目

- 1) 家族の基本的属性：母親の年齢・職業状態、夫の年齢、家族形態、子どもの人数・性別・出生順位など
- 2) 子ども総研式育児支援質問紙 0～11 か月児用：「はい」、「ややはい」、「ややいいえ」、「いいえ」の 4 段階リッカート尺度で、以下の領域群から構成される。
 - ① 育児困難感 I（育児への自信のなさや母親としての不適格感） 8 項目
 - ② 夫・父親・家庭機能の問題 21 項目
 - ③ 母親の不安・抑うつ傾向 12 項目
 - ④ 夫の心身不調 9 項目
 - ⑤ Difficult Baby 8 項目
 - ⑥ 子どもの心身状態 10 項目
- 3) 母親が自覚する不安・ストレスの要因：植村ら³⁾が因子分析を用いて抽出した育児ストレス要因を参考にして設定した 7 項目
- 4) 育児の捉え方、考え方
- 5) 育児情報利用についての認識
- 6) 不安・ストレスへの対処
- 7) 育児グループ・サークルへの参加の有無

3. 倫理的配慮

調査を行うにあたり、調査の目的と合わせて、匿名性や調査結果の限定利用について示した文書を調査票に添付した。また、面接の際は、倫理的配慮について口頭でも説明し、同意を得た。

4. 分析方法

育児困難感をはじめとする子ども総研式育児支援質問紙の各領域の得点は、「子ども総研式育児支援質問紙の利用手引き」¹⁸⁾に沿って単純加算後（一部逆転項目あり）、プロフィールを作成する時は標準得点（1～5）に換算した。

母親が自覚するストレス源、育児の捉え方や考え方、不安・ストレスへの対処、育児情

報利用についての認識は、「はい=4点」、「ややはい=3点」、「ややいいえ=2点」、「いいえ=1点」とし、2群とする際には「(やや) はい」と「(やや) いいえ」にまとめて検定した。

統計分析には、SPSS14.0Jを用いた。

Ⅲ 結果

1. 対象家族の背景

表1に示したとおり、母親の年齢は平均 30.6 ± 4.8 歳、職業状態は、専業主婦が 195 人 (74.7%)、有職者は 41 人 (15.7%) であった。子どもの人数は 1 人が 130 人 (49.8%) と最も多く、対象児の月齢は平均 5.8 ± 2.9 ヶ月であった。家族形態は核家族が 8 割以上を占めた。

2. 育児困難感について

育児困難感 I の分布を表2に示した。約 7 割の人が「子どものことは理解できている」、「子どもをうまく育てている」と感じていた。しかし一方で、約 6 割の人が「いろいろ心配なことがある」と何らかの不安を抱えており、また約 4 割が「しつけの仕方がわからない」と答えた。

「育児に自信が持てない」は 62 人 (23.8%)、「子育てに困難を感じる」は 63 人 (24.1%) と、およそ 4 人に 1 人の割合で感じており、「母親として不適格と感じる」人も 43 人 (16.5%) いた。

3. 母親が自覚する不安・ストレスの要因

母親が自覚する不安・ストレスの要因として最も多いのは、表3に示すように「自分の時間がない」170 人 (65.2%) であり、ついで「ぐずる、言うことを聞かないなど、子どもの聞き分けのない行動」、「社会と接触がない、子どもと二人きりでいるなど、一人で子育てをしている」であった。また、約 4 割の人が「自分が病気になるとどうなるかが気になる」と答えた。

4. 育児の捉え方、考え方

育児の捉え方、考え方についてたずねた結果を表4に示した。約 2 割の母親が「母親が育児をつらいと感じるのはいけないことだと思う」と答え、また、17 人 (6.5%) と少数ではあるが、「育児の問題で夫の手をわずらわせたり心配させたりすべきでないと思う」との回答がみられた。

5. 育児情報利用についての認識

表5のとおり、「私にとって、本や雑誌、テレビからの育児情報は欠かせないものである」と答えた人は 141 人 (54.1%) と半数以上であった。子どもの人数との関連をみたところ、「私にとって、本や雑誌、テレビからの育児情報は欠かせないものである」($t=3.655, p=.000$)、「本や雑誌、テレビでみた育児方法はすぐに取り入れる」($t=3.969, p=.000$)、「たくさんの育児情報に混乱してしまう」($t=2.615, p=0.009$)と、いずれの項目においても、子どもが 1 人の人は有意に得点が高かった (表6)。

6. 育児不安・ストレスへの対処

育児不安・ストレスへの対処ができていないかをたずねたところ、表7のとおり、大半の人が肯定的な回答をしたが、「解消法を自分で見つけられる」では1割が、「育児の合間に気分転換ができていない」では2割の人が「ややいいえ/いいえ」と答えた。子どもの人数との関連はみられなかった。

育児グループやサークルに参加している人は55人(21.1%)であった。

7. 育児困難感に関連する要因

子ども総研式育児支援質問紙の各領域について、表8に平均得点およびクロンバックの信頼性 α 係数を示した。「育児困難感I」は、平均 16.3 ± 4.5 点、 $\alpha = 0.83$ であり、また、他の領域に関しても $\alpha = 0.87 \sim 0.94$ と高い内的一貫性が示された。「子どもの心身状態」の領域のみ $\alpha = 0.48$ であり、この領域は統計的なまとまりが良くないため参考にとどめるべきとする先行研究と同様の結果を示した。

1) 育児困難感Iと他領域との関連

育児困難感Iの標準得点のランクが4以上と3以下の群に分けて、プロフィールを作成したものが図1である。育児困難感Iのランクが4以上の群は、「夫・父親・家庭機能の問題」($t = -3.826, p = .000$)、「母親の不安・抑うつ傾向」($t = -10.348, p = .000$)、「夫の心身不調」($t = -3.957, p = .000$)、「Difficult Baby」($t = -3.712, p = .000$)、「子どもの心身状態」($t = -5.082, p = .000$)とすべての領域得点が有意に高かった。

2) 育児困難感Iの関連要因

表9は、子ども総研式育児支援質問紙の各領域、および著者らが作成した変数間の相関係数を参考に独立変数を設定し、育児困難感Iを従属変数として強制投入による重回帰分析を行った結果である。

育児困難感Iは、「夫・父親・家庭機能の問題」の得点が高い、「Difficult Baby」の得点が高い、メディアからの育児情報が欠かせないとの認識があるという場合に有意に高く、心配事やストレスの解消法を自分で見つけられるとの認識がある場合に有意に低かった。

IV 考察

1. 母親の育児不安・ストレスの測定

乳児を育てる母親の育児不安・ストレスを育児困難感尺度により測定したところ、平均得点は 16.3 ± 4.5 点であった。育児困難感Iの設問中、「子どもをうまく育てている」に「はい/ややはい」と答えた人が70.2%だった一方で、「育児についていろいろ心配なことがある」に「はい/ややはい」と答えた人も61.6%を占め、育児を無難にこなしながらも、半数以上の母親が何らかの不安や迷いを抱いて日々を過ごしている現状が明らかとなった。子どもが誕生してからの1年間は、女性が母親としての新たな役割を獲得する、あるいは新たな生活に適應する時期であり、それに伴う不安や葛藤をある程度感じるのはやむをえない。また、子どもが著しい成長発達を遂げ、母親は次々と未経験のできごとに遭遇する時期であり、玉城ら¹⁹⁾の報告のとおり月齢により不安の内容は変化するため、乳児期を通

して育児上の不安や自信のなさが比較的高頻度にみられても妥当であると考えられる。しかし、約 16%の人が「母親として不適格と感じる」、約 24%の人が「子育てに困難を感じる」と答えており、不安や自信のなさを増大させつつあるものと推測できる。乳児期において、子どもの成長発達に応じて育児上の不安を解消し、それまでの育児を肯定することで母親としての自信を少しずつ積み重ねていけるための支援が重要だと考えられた。

今回の調査に用いた「育児困難感Ⅰ」は、 $\alpha = 0.83$ と高い内的一貫性を示し、母親の育児不安・ストレスを測定するうえで有用な尺度といえる。項目も 8 項目と少なく、短時間での回答が可能であるため、健診場面などでの活用が期待される尺度であろう。子ども総研式育児支援質問紙の開発過程において、1 歳児以降においては、育児困難感Ⅰは、育児への心配や戸惑い、不適格感を主体とする育児困難感Ⅰと、子どもに対するネガティブな感情や攻撃・衝動性を主体とする育児困難感Ⅱに分かれるが、0～11 ヶ月児では育児困難感Ⅰだけを示すことが明らかとなっている。しかし、平成 16 年 1～12 月の間に子ども虐待により死亡した 58 人のうち、1 歳未満が 24 人 (41.4%) であるとの報告²⁰⁾をみると、乳児期に育児困難感Ⅱが存在する可能性を否定できないのではないかと考える。乳児の脆弱性から、養育者の攻撃的・衝動的な感情による行動は、すなわち致命的な状況を招くことが推測できるため、乳児期の育児困難感Ⅱについて、継続して検討する必要がある。

2. 育児不安・ストレスの関連要因

面接等のアプローチが必要とされる、育児困難感Ⅰの標準得点がランク 4 以上の群は、3 以下の群に比べ、すべての領域得点が有意に高かった。これは、川井らの報告²¹⁾と同様の結果であり、育児不安・ストレスが高い場合には、母親本人だけでなく夫や子どもの状況も含めた家族全体へのアプローチが必要であることを示唆している。

重回帰分析の結果からは、「夫・父親・家庭機能の問題」の領域得点が高い、「Difficult Baby」の領域得点が高い場合に、育児困難感Ⅰが有意に高くなることが明らかとなった。家族、特に夫からのサポートの有無と育児不安・ストレスとの関連については、これまでに多くの報告^{5) 6) 9) 22) 23)}があるが、本研究の結果は、母親に対する夫や家族のサポートの重要性を支持している。今回の調査対象の 8 割以上が核家族で、夫は母親にとってのキーパーソンであると推測できるため、このことも夫からのサポートが母親の育児不安・ストレスに影響した一因であろう。また、育児は親と子の相互作用であり、よく泣いてなだめにくい、あまり眠らないなどの Difficult Baby が、親としての経験や自信を重ね始めようとしている段階の母親に、「育児がうまくいかない」という不安や自信低下をもたらすことは十分考えられる。ただし、今回、自記式質問紙を用いているため、この Difficult Baby は母親の認知によるものであり、医学的・客観的評価とは異なる可能性がある。したがって、乳児期には、保健医療の専門職者が健診等を利用して、子ども自身の様子、乳児の特性に対する母親の理解、育児技術の習得状況を確認し、成功体験につながるような育児のアドバイスを積極的に行うことが特に重要と考えられた。

メディアからの育児情報が欠かせないと答えた人は、そうでない人に比べ有意に育児困

難感 I が高かった。八重樫⁶⁾は、育児の情報源が実父母・義父母だと不安が低いと述べ、山岡²⁴⁾も、インターネットへの個別アクセスの活用度と育児不安が関連していると報告している。一方通行的なメディアに頼りすぎ、情報を鵜呑みにする行動に慣れることが、育児について母親が自己判断する機会を妨げ、不安を増大させていると考える。

一方、心配事やストレスの解消法を自分で見つけられることは、育児困難感 I を低める方向に影響していた。これは、育児不安の内容から分類された因子として、信頼できる相談相手を探す術がないことを示した小路の報告²⁵⁾と同様であった。困った時にはこの方法で対処できた、という経験の蓄積や、身近にこのような資源があるという理解によって、ストレスには対処可能だと自覚できるようになり、その結果、育児に向かう気持ちに余裕が生まれることで育児困難感 I は低くなるものと考えられた。

本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 C「現代の母親の抱える育児不安・ストレス要因に対する育児グループの効果に関する研究」(課題番号: 15592317) により行われた研究の一部である。

V 結語

乳児を育てる母親の育児不安・ストレスを測定するとともに、その要因を明らかにすることを目的として、子ども総研式育児支援質問紙を使用して調査を行った。母親の半数以上が何らかの不安を抱えており、また、育児困難感 I は、夫・父親・家庭機能の問題、**Difficult Baby**、メディアからの育児情報に対する価値観、心配事やストレスの解消法を自分で見つけられるとの認識に影響されることが明らかとなった。

本研究の限界は、調査地域が大都市のベッドタウンであり、対象に核家族が多い、専業主婦が多いという特徴のある点である。対象を広げることで家族・職業形態の一般化を図る必要がある。

謝辞

研究にご協力をいただきましたお母様方ならびに保健センターの皆様方に心よりお礼申し上げます。

文献

- 1) 大西由希子. 産後の母親の育児不安及び育児に対する感情とその影響要因 4ヶ月育児の現状から今後の助産婦の援助を考える. 看護総合科学研究会誌. 1999, 2(2), 24-37.
- 2) 板倉祐子, 大土井希, 小池麻希子, 他. O市における育児不安に関する検討. 岡山大学医学部保健学科紀要. 2003, 13, 99-107.
- 3) 植村裕子, 三浦浩美, 野口純子, 他. 香川県における3歳児をもつ母親の育児ストレ

- ス構造－育児ストレス尺度を用いて－. 香川母性衛生学会誌. 2002, 2(1), 62-68.
- 4) 田原卓浩. 多文化子育て調査報告書 日本の母親の育児不安と育児情報に関する子育て調査. チャイルド・ヘルス, 2003, 6(2), 144-146.
- 5) 中添和代, 舟越和代, 白石裕子. 働く母親の育児不安 夫の育児サポート意識との関連. 地域環境保健福祉研究, 2003, 6(2), 39-46.
- 6) 八重樫牧子. 母親の子育て不安の程度と母親クラブ活動との関連性に関する考察. 川崎医療福祉学会誌. 2002, 12(1), 45-57.
- 7) 榎本妙子, 福本恵, 堀井節子, 他. 育児不安の実態と関連要因の検討(第2報)－育児不安測定項目の因子分析－. 京都府立医科大学医療技術短期大学部紀要. 1999, 8 巻, 163-172.
- 8) 三国久美, 深山智代, 広瀬たい子, 他. 1歳6ヶ月児を持つ両親の育児ストレスとコーピングスタイル. 日本看護研究学会雑誌. 2003, 26(4), 31-43.
- 9) 谷本公重, 山下美弥, 佐々木睦子, 他. 幼児をもつ母親の育児不安と対処行動. 香川医科大学看護学雑誌. 2003, 7(1), 65-72.
- 10) 北村愛子, 佐鹿孝子, 大久保ひろ美, 他. 父親の育児参加と母親の育児不安との関連 204組の夫婦のアンケート調査より. 山梨県立看護大学短期大学部紀要. 2000, 5(1), 61-76.
- 11) 嘉数朝子, 服部章吾, 玉城三枝子, 他. 沖縄県の3～5ヶ月児を持つ母親の育児不安(I) 母親の属性と夫婦関係との関連で. 沖縄の小児保健. 2003, 30号, 3-9.
- 12) 加藤和美. 地域(都市化進行・農山村)及び家族形態間比較からみた母親の育児不安に関する検討～性別役割観・伝統的規範へのとらわれに重点をおいて～. 公衆衛生研究. 2000, 49(4), 380.
- 13) 吉田弘道, 山中龍宏, 巷野悟郎, 他. 2人目の子どもを育てている母親は育児不安が軽いか. チャイルド・ヘルス. 2001, 4(10), 766-769.
- 14) 相墨生恵, 荒木暁子, 兼松百合子, 他. 岩手県における育児ストレスの変化とそれにかかわる要因 3年前の調査との比較から. 岩手県立大学看護学部紀要. 2003, 5巻, 1-12.
- 15) 川井尚, 庄司順一, 千賀悠子. 育児不安に関する臨床的研究(Ⅲ) 育児困難感アセスメント作成の試み. 日本総合愛育研究所紀要. 1997, 33巻, 35-56.
- 16) 川井尚, 庄司順一, 千賀悠子, 他. 育児不安のアセスメントと援助方法に関する研究 育児不安に関する臨床的研究(Ⅳ) 育児困難感のプロフィール評定試案. 日本子ども家庭総合研究所紀要. 1998, 34巻, 93-111.
- 17) 川井尚, 庄司順一, 千賀悠子, 他. 育児不安に関する臨床的研究 子ども総研式・育児支援質問紙(試案)の臨床的有用性に関する研究. 日本子ども家庭総合研究所紀要. 2000, 36巻, 117-138.
- 18) 川井尚. 子ども総研式・育児支援質問紙の利用手引き. 母子保健事業団. 2003.
- 19) 玉城三枝子, 古謝タカ子, 照屋清子, 他. 3～5か月児を持つ母親の育児不安Ⅱ－母親の育児上の心配事と保健医療関係者の育児支援の検討－. 沖縄の小児保健. 2003, 30, 10-17.

20) 厚生労働省. 子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について 社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会第2次報告 [online]. 2006, [引用 2006_4_15]. Available from Internet

URL://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/03/dl/h0330-4b.pdf

21) 川井尚, 庄司順一, 千賀悠子, 他. 子ども総研式・育児支援質問紙 (ミレニアム版) の手引きの作成. 日本子ども家庭総合研究所紀要. 2001, 37 巻, 159-180.

22) 石橋君子, 大坪智美, 正崎仁恵, 他. 夫婦の意識が相互の育児不安に及ぼす影響. 母性衛生. 2002, 43(4), 541-548.

23) 伊吹麻里, 中村歩美, 中野真希, 他. 核家族における乳幼児期の母親の育児不安 育児不安に影響する人的環境要因. 藍野学院紀要. 2005, 18 号, 105-111.

24) 山岡テイ. 育児情報の活用意識・行動と育児不安の関連性. チャイルド・ヘルス. 2001, 4(12), 56-59.

25) 小路ますみ, 淵野由夏, 大倉美鶴, 他. 蓄積疲労の観点からとらえた育児不安の状況とその要因 都市在住の核家族第1子, 1歳未満の子どもをもつ母親の調査から. 日本在宅ケア学会誌. 2005, 9(1), 78-86.

表1 対象家族の背景

	カテゴリー	分布	N=261
妻の年齢		平均30.6±4.8歳	
夫の年齢		平均32.6±5.5歳	
妻の職業	専業主婦	195人 (74.7%)	
	フルタイム	9人 (3.4%)	
	パート・アルバイト	5人 (1.9%)	
	自営	2人 (0.8%)	
	休職中	25人 (9.6%)	
	その他	5人 (1.9%)	
	無回答	20人 (7.7%)	
家族形態	3世代家族	27人 (10.3%)	
	核家族	215人 (82.4%)	
	ひとり親家族	2人 (0.8%)	
	無回答	17人 (6.5%)	
子どもの人数		平均1.6±0.7人	
	1人	130人 (49.8%)	
	2人	93人 (35.6%)	
	3人	17人 (6.5%)	
	4人	4人 (1.5%)	
	無回答	17人 (6.5%)	
対象児の月齢 (満)		平均5.8±2.9ヶ月	
	3ヶ月	14人 (5.4%)	
	4ヶ月	170人 (65.1%)	
	5ヶ月	1人 (0.4%)	
	9ヶ月	9人 (3.4%)	
	10ヶ月	45人 (17.2%)	
	11ヶ月	22人 (8.4%)	
対象児の性別	男児	105人 (40.2%)	
	女児	112人 (42.9%)	
	無回答	44人 (16.9%)	
対象児の出生順位	第1子	137人 (52.5%)	
	第2子	97人 (37.2%)	
	第3子	17人 (6.5%)	
	第4子	4人 (1.5%)	
	無回答	6人 (2.3%)	

表2 育児困難感 I

N=261

	カテゴリー	人 (%)
育児に自信が持てない	はい	7 (2.7%)
	ややはい	55 (21.1%)
	ややいいえ	92 (35.2%)
	いいえ	105 (40.2%)
	無回答	2 (0.8%)
子どものことでどうしたらよいかわからない	はい	7 (2.7%)
	ややはい	48 (18.4%)
	ややいいえ	91 (34.9%)
	いいえ	110 (42.1%)
	無回答	5 (1.9%)
子どものことは理解できている	はい	51 (19.5%)
	ややはい	139 (53.3%)
	ややいいえ	59 (22.6%)
	いいえ	8 (3.1%)
	無回答	4 (1.5%)
どのようにしつければよいかわからない	はい	11 (4.2%)
	ややはい	91 (34.9%)
	ややいいえ	93 (35.6%)
	いいえ	64 (24.5%)
	無回答	2 (0.8%)
母親として不適合と感じる	はい	8 (3.1%)
	ややはい	35 (13.4%)
	ややいいえ	98 (37.5%)
	いいえ	117 (44.8%)
	無回答	3 (1.1%)
子育てに困難を感じる	はい	9 (3.4%)
	ややはい	54 (20.7%)
	ややいいえ	71 (27.2%)
	いいえ	125 (47.9%)
	無回答	2 (0.8%)
子どもをうまく育てている	はい	38 (14.6%)
	ややはい	145 (55.6%)
	ややいいえ	66 (25.3%)
	いいえ	9 (3.4%)
	無回答	3 (1.1%)
育児についていろいろ心配なことがある	はい	51 (19.5%)
	ややはい	110 (42.1%)
	ややいいえ	51 (19.5%)
	いいえ	48 (18.4%)
	無回答	1 (0.4%)

表3 母親が自覚する不安・ストレスの要因

N=261

	カテゴリー	人 (%)
自分の時間がない	はい	44 (16.9%)
	ややはい	126 (48.3%)
	ややいいえ	48 (18.4%)
	いいえ	43 (16.5%)
	無回答	0 (0.0%)
子どもの聞き分けのない行動	はい	23 (8.8%)
	ややはい	94 (36.0%)
	ややいいえ	76 (29.1%)
	いいえ	67 (25.7%)
	無回答	1 (0.4%)
ひとりで子育てをしている (社会との接触がなく子どもと家にいる)	はい	20 (7.7%)
	ややはい	77 (29.5%)
	ややいいえ	61 (23.4%)
	いいえ	101 (38.7%)
	無回答	2 (0.8%)
子どもの対応、しつけがわからない	はい	5 (1.9%)
	ややはい	52 (19.9%)
	ややいいえ	75 (28.7%)
	いいえ	128 (49.0%)
	無回答	1 (0.4%)
子どもの食行動の問題 (哺乳が進まない、食べたがらないなど)	はい	11 (4.2%)
	ややはい	39 (14.9%)
	ややいいえ	49 (18.8%)
	いいえ	160 (61.3%)
	無回答	2 (0.8%)
夫の無理解・非協力的態度	はい	17 (6.5%)
	ややはい	40 (15.3%)
	ややいいえ	54 (20.7%)
	いいえ	149 (57.1%)
	無回答	1 (0.4%)
自分が病気になるとどうなるか	はい	29 (11.1)
	ややはい	77 (29.5%)
	ややいいえ	34 (13.0%)
	いいえ	120 (46.0%)
	無回答	1 (0.4%)

表4 育児の捉え方、考え方

N=261

	カテゴリー	人 (%)
母親が育児をつらいと感じるのはいけないことだ と思う	はい	27 (10.3%)
	ややはい	31 (11.9%)
	ややいいえ	83 (31.8%)
	いいえ	120 (46.0%)
母親が子どもをかわいくないと感じるのはいけな いことだと思う	はい	100 (38.3%)
	ややはい	68 (26.1%)
	ややいいえ	55 (21.1%)
	いいえ	38 (14.6%)
育児の問題で夫の手をわずらわせたり心配させたり すべきでないと思う	はい	4 (1.5%)
	ややはい	13 (5.0%)
	ややいいえ	40 (15.3%)
	いいえ	204 (78.2%)

表5 育児情報利用についての認識

N=261

	カテゴリー	人 (%)
私にとって、本や雑誌、テレビからの育児情報は欠かせないものである	はい	55 (21.1%)
	ややはい	86 (33.0%)
	ややいいえ	64 (24.5%)
	いいえ	54 (20.7%)
	無回答	2 (0.8%)
本や雑誌、テレビで見た育児方法はすぐに取り入れる	はい	18 (6.9%)
	ややはい	85 (32.6%)
	ややいいえ	91 (34.9%)
	いいえ	65 (24.9%)
	無回答	2 (0.8%)
たくさんの育児情報に混乱してしまう	はい	21 (8.0%)
	ややはい	52 (19.9%)
	ややいいえ	53 (20.3%)
	いいえ	133 (51.0%)
	無回答	2 (0.8%)

表6 子どもの人数と育児情報についての認識

		N	平均値	p 値
私にとって、本や雑誌、テレビからの育児情報は 欠かせないものである	子どもが1人	135	2.78	0.000
	子どもが2人以上	118	2.31	
本や雑誌、テレビで見た育児方法はすぐに取り入 れる	子どもが1人	135	2.43	0.000
	子どもが2人以上	118	1.99	
たくさんの育児情報に混乱してしまう	子どもが1人	135	2.01	0.009
	子どもが2人以上	118	1.68	

t 検定による

表7 育児不安・ストレスへの対処

N=261

	カテゴリー	人	(%)
育児についての心配事やストレスが生じた時の解消法を自分で見つけられる	はい	138	(52.9%)
	ややはい	88	(33.7%)
	ややいいえ	28	(10.7%)
	いいえ	5	(1.9%)
	無回答	2	(0.8%)
育児の合間に気分転換ができています	はい	115	(44.1%)
	ややはい	88	(33.7%)
	ややいいえ	38	(14.6%)
	いいえ	18	(6.9%)
	無回答	2	(0.8%)
困ったことやつらいことがあった時、誰かに気持ちを打ち明けることができる	はい	197	(75.5%)
	ややはい	44	(16.9%)
	ややいいえ	13	(5.0%)
	いいえ	5	(1.9%)
	無回答	2	(0.8%)

表8 領域別の信頼性係数

尺度	N	項目数	得点	平均得点	range	信頼性係数
育児困難感 I	252	8	1~4	16.3±4.5	8~32	0.83
夫・父親・家庭機能の問題	253	21	1~4	32.9±11.5	21~84	0.94
母親の不安・抑うつ傾向	259	12	1~4	22.1±7.2	12~48	0.88
夫の心身不調	259	9	1~4	11.9±4.4	9~36	0.89
Difficult Baby	261	8	1~4	14.5±5.7	8~32	0.87
子どもの心身状態	238	10	1~4	15.2±3.2	10~40	0.48

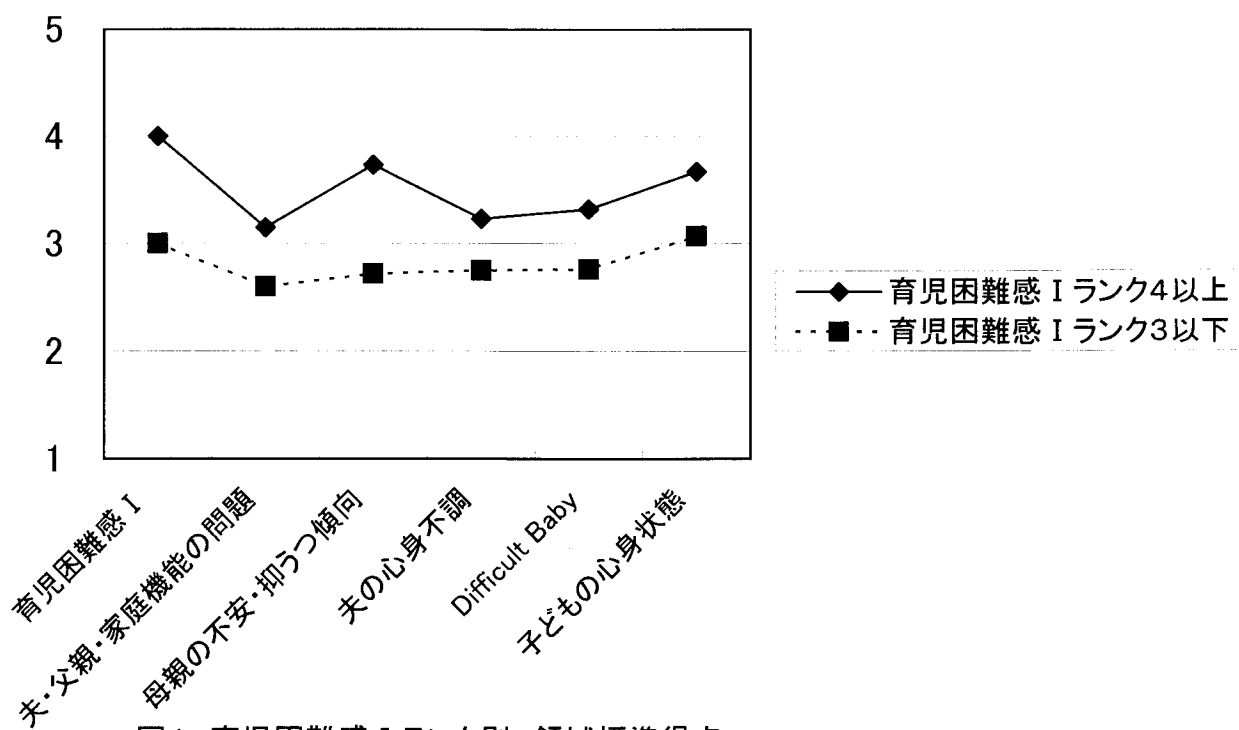


図1 育児困難感 I ランク別 領域標準得点

表9 育児困難感Iの関連要因

独立変数	標準偏回帰係数 (ベータ)
母親の年齢	.039
子どもの月齢	.029
子どもの人数	.052
核家族	-.005
夫・父親・家庭機能の問題	.237 **
Difficult Baby	.215 **
子どもの食行動の問題が不安・ストレスの要因となる	.117
メディアからの育児情報が欠かせない	.214 **
心配事やストレスの解消法を自分で見つけられる	-.222 **
R	.540 ***
R Square (%)	25.2

*** p < 0.001 ** p < 0.01

0 ~ 1 1 M

Because children grow up cheerfully.

子ども総研式 育児支援質問紙 0～11か月児用

子どもが心身共にすこやかに育つには、
子ども自身の自発的な力とそれを支える環境がとても大切です。
そこで、お母さんやご家族の育児のお手伝いをするを
目的にこの質問紙を作りました。
少しでもお役に立てることを願っています。

回答の仕方

1. 中の質問項目に、お考えやお気持ちに近いものを、
いずれか1つだけ選んで*に○をつけてください。
どちらとも決められず、迷うこともあるかと思いますが、
必ずどれか1つにお答えください。
2. 間違えたときは//と消して○をつけ直してください。
3. 検査用紙はのりで閉じてありますが、はがさないで
ください。

※ 本質問紙は複写式ですので、同封の台紙をお使い下さい。

お子さんの名前 _____ 西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日 生まれ 満 _____ か月
 お子さんは _____ 番目 1.男の子 2.女の子
 あなたのお名前 _____ 年齢 _____ 歳

(お名前の記載を望まない方は無記入にしてください)

1. 育児の印象について

A.

- | | | | | |
|-------------------------|---------|---------|---------|---------|
| | はい | ややはい | ややいいえ | いいえ |
| 1. 育児に自信が持てない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 2. 子どものことでどうしたらよいかわからない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 3. 子どものことは理解できている | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 4. どのようにしついたらよいかわからない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 5. 母親として不適格と感じる | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 6. 子育てに困難を感じる | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 7. 子どもをうまく育てている | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 8. 育児についていろいろな心配なことがある | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |

B.

- | | | | | |
|--------------------------|---------|---------|---------|---------|
| 1. 子どものことがわずらわしくてイライラする | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 2. 子どもを虐待しているのではないかと思う | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 3. 子どもがかわいいと思えないことがある | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 4. 子どもに八つ当たりしては、反省して落ち込む | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |

2. お父さんやご家族について

- | | | | | |
|-----------------------------|---------|---------|---------|---------|
| | はい | ややはい | ややいいえ | いいえ |
| 1. 夫は私や子どものためにとてもよくしてくれる | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 2. 夫は精神的に私を支えてくれている | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 3. 父親としての自覚が足りない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 4. 夫は子育ての大変さなど私の苦勞をわかっていない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 5. 家庭内に関する事柄について夫には期待できない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 6. 夫は育児のことで相談にのってくれる | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 7. 夫は子どもとよく遊び、面倒見がよい | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 8. 夫と気持ちが通じ合っている | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 9. 夫は子どもに関心がない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 10. 夫は仕事や趣味だけに打ち込んでいる | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 11. 夫は子どもをどのように扱ったらよいかわからない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 12. この人と結婚して幸せである | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 13. 夫と話し合う時間が少ない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 14. 家族は子育ての大変さを理解してくれない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 15. 家族は私の趣味や仕事を理解し、協力してくれる | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 16. 家族としてのまとまりを感じる | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 17. 子どもは父親になつていない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 18. 家庭の中がしっくりいかない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 19. 妊娠中、夫や家族の理解が得られなくて大変だった | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 20. 夫は家事や育児に消極的である | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 21. 夫は幸せな気分でご過ごしている | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |

3.ご自身のようすについて

- 1.気が滅入る
- 2.不安や恐怖感におそわれる
- 3.悲観的になりやすい
- 4.とても心配性であれこれ気に病む
- 5.精神的に不調である

- 6.何ともいえず淋しい気持ちにおそわれることがある
- 7.いてもたってもいられないほど落ち着かない
- 8.何事にも敏感に感じすぎてしまう
- 9.おこりっぽい
- 10.イライラしている

- 11.楽天的でくよくよ考えない
- 12.出産後、気持ちが沈み、おっくうで何もする気がしなかった

はい ややはい ややいいえ いいえ

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

4.あなたからみた夫のようすについて

- 1.精神的に不調である
- 2.イライラしている
- 3.精神的にゆとりがない
- 4.沈みがち
- 5.悲観的である

- 6.眠れない
- 7.淋しそう
- 8.仕事もうまくいっていない
- 9.仕事に行きたがらなかつたり、やる気を失っている

はい ややはい ややいいえ いいえ

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

5.赤ちゃんのとき(生まれてから半年ぐらまで), お子さんはどのような赤ちゃんですか(でしたか)

- 1.よく泣いてなだめにくい
- 2.わけもわからず泣く
- 3.あまり眠らない
- 4.抱っこや外に連れ出すなど眠るまでに手がかかる
- 5.一晩に何回も起こされる

- 6.おとなしく手がかからない
- 7.一日の生活リズムが一定しない
- 8.夜泣きがひどい

はい ややはい ややいいえ いいえ

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

6. お子さんについて

A.

1. 子どもの中に入るのをいやがる
2. 心配になる行動がある
3. 指しゃぶりがあがる
4. 母乳(ミルク)飲みが悪かったり、離乳食をいやがるなど
5. 夜泣きがある

はい ややはい ややいいえ いいえ

----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*

6. おびえたり、ひどくこわがる
7. 活発で生きいきしている
8. 発達の全般的な遅れがある
9. ひとみしりが強い
10. かんしゃくをよく起こす

----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*

B.

1. いつも元気である
2. 機嫌が変わりやすい
3. 慢性的な病気があがる

はい ややはい ややいいえ いいえ

----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*

7. お子さんについて困っていることや心配なこと、相談したいことがあればお書きください。

[補足質問]

1.お父さんの年齢 _____ 歳

2.お子さんは _____ 人

3.同居しているのは

- 1.夫 2.夫<単身赴任中> 3.自分の父親 4.自分の母親 5.夫の父親 6.夫の母親
7.その他 ()

4.お子さんの昼間の主な養育者は(1つだけ○をつけてください)

- 1.母親 2.保育所 3.祖父母 4.その他 ()

5.あなたのお仕事は(1つだけ○をつけてください)

- 1.主婦 2.フルタイム(常勤) 3.パート・アルバイト 4.自営 5.休職中
6.その他 ()

6.妊娠、出産の状態について

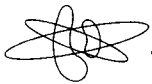
- 1.妊娠中の異常(1.なし 2.あり『具体的に _____』)
2.妊娠週数()週
3.分娩中の異常(1.なし 2.あり『具体的に _____』)
4.出産直後の異常(1.なし 2.あり『具体的に _____』)
5.出生体重()g
6.新生児期の異常(1.なし 2.あり『具体的に _____』)
7.生後1か月以降の異常(1.なし 2.あり『具体的に _____』)

●手引き書、および本質問紙(所見票・プロフィール評定尺度票含む)は著作権法上の保護を受けています。

手引き書、および本質問紙(所見票・プロフィール評定尺度票含む)の一部あるいは全部について、

下記著者代表からの文書による許諾を得ずに、いかなる方法によっても無断で複写・複製することは禁じられています。

●手引き書、および本質問紙(所見票・プロフィール評定尺度票含む)に関するご質問は、下記の連絡先にお問い合わせください。



子ども総研式・育児支援質問紙

0~11か月児版

著者代表：川井 尚(日本子ども家庭総合研究所・愛育相談所)

kawai@aiku.or.jp

2003年 3月31日 第2版発行

連絡先：恩賜財団母子愛育会・日本子ども家庭総合研究所・愛育相談所

〒106-8580 東京都港区南麻布5-6-8

FAX：03(3473)8408

普及協力 財団法人 母子衛生研究会

販売窓口 有限会社 母子保健事業団

〒150-8923 東京都渋谷区神宮前5-53-1

電話：03(3499)3120 FAX：03(3499)3002

子育て支援に関する調査1

質問項目に、お考えや気持ちに近いものをいずれか1つだけ選んで数字に○をつけてください・

【質問1】下記の項目が育児不安、ストレスの要因であるかについてお尋ねします。

	はい	ややはい	ややいいえ	いいえ
自分に時間がないこと（毎日同じことの繰り返し、仕事や趣味が制限されるなど）がストレスになる	1	2	3	4
子どもの聞き分けのない行動（ぐずる、言うことを聞かないなど）がストレスになる	1	2	3	4
一人で子育てしていること（子どもと二人きりで家にいる、社会との接触がないなど）が不安やストレスになる	1	2	3	4
子どもの対応、しつけがわからない（他の親としつけかたが違うなど）が不安やストレスになる	1	2	3	4
子どもの食行動における問題（なかなか哺乳が進まない、子どもが食べたがらないなど）が不安やストレスになる	1	2	3	4
夫の無理解・非協力的態度（夫が育児に非協力的である）がストレスになる	1	2	3	4
自分が病気になるとうなるのかが気になる（体調が悪いなど）	1	2	3	4

【質問2】今までの育児の考え方へのとらわれ、母親としての自覚・責任への不安についてお尋ねします。

	はい	ややはい	ややいいえ	いいえ
母親が育児をつらいと感じるのはいけないことだと思う	1	2	3	4
母親が子どもをかわいくないと感じるのはいけないことだと思う	1	2	3	4
育児の問題で夫の手をわずらわせたり心配させたりすべきでない、と思う	1	2	3	4
周りの母親が立派に見えてしかたがない	1	2	3	4
家族や周りの人たちに、良い母親として認められたいと思う	1	2	3	4
思っていたより、私は育児をうまくできないと感じる	1	2	3	4
周りの人たちは、私の育児法を尊重してくれると感じる	1	2	3	4

【質問3】育児についての気持ちや考えについてお尋ねします。

	はい	ややはい	ややいいえ	いいえ
子どもが生まれて良かったと思う	1	2	3	4
子どもと一緒にいると楽しい	1	2	3	4
育児を通して私自身が成長していると感じる	1	2	3	4
子どもの日々の成長が楽しみだと感じる	1	2	3	4
子どもは自分の生きがいだ	1	2	3	4

子どもと気持ちが通い合っていると思う	1	2	3	4
自分から子どもをあやしたり、遊んであげたくなる	1	2	3	4

【質問4】 育児不安やストレスに対してどのように対処してきたのかをお尋ねします。

	はい	ややはい	ややいいえ	いいえ
育児についての心配事やストレスが生じた時の解消法を、自分で見つけられる	1	2	3	4
育児の合間に気分転換ができています	1	2	3	4
困った時やつらいことがあった時、誰かに気持ちを打ち明けられることができる	1	2	3	4
私にとって、本や雑誌、テレビからの育児情報は欠かせないものである	1	2	3	4
本や雑誌、テレビで見た育児方法はすぐに取り入れる	1	2	3	4
たくさんの育児情報に混乱してしまう	1	2	3	4

【質問5】 育児サークルやグループの参加について該当する番号に○をつけてください。

1. 参加している

2. 参加していない

平成17年度

研究報告

育児グループ効果に関する研究

【研究目的および研究の位置づけ】

現代の母親は、核家族化も進行し身近にサポートを得られなくなっており、孤立化し様々な育児不安・ストレスを抱え、虐待の一因となっていると言われていいる。研究対象地域の子育てをしている母親の育児不安・ストレス要因を明らかにし、要因測定尺度を試案したので、育児グループとの関連を検討し、その効果を明らかにする。

【研究方法】

1) 研究対象

育児グループに参加している母親で、研究の趣旨に同意していただいた母親

2) 研究方法

育児グループに参加し、研究の概要を説明し、調査票を配布し、後日郵送にて回答を得た。育児不安・ストレス測定尺度と育児グループ効果測定尺度、育児グループ特徴で構成された調査票を回収し、SPSSを用いて統計的分析を行い、グループ活動の効果を明らかにする。

【育児グループの特徴に関する調査票】

質問項目	回答欄
育児グループ名 担当者名、連絡先	名称 () () TEL ()
発足のきっかけ (行政との関連性など)	
発足からの期間	約 () 年 () ヶ月
会員数	() 人
子どもの対象年齢	() ヶ月 (月齢)
活動時間、頻度	() 時～() 時 月() 回 or 週() 回
活動内容	
毎回の平均参加人数	約 () 組
運営方法	1. 保健センターなど行政主導型 2. 保健センターなど行政との協同型 3. 全くの自主型 4. その他 ()
専門家は入っていますか？ どのような専門家が入っていますか？	1. 入っている 2. 入っていない イ. 保健師 ロ. 保育士 ハ. 栄養士 ニ. 心理士 ホ. その他 ()
助成金は受けていますか？ どのような助成金ですか？	1. 受けている 2. 受けていない 助成金名 ()
育児グループの活動をして いるの課題や行政への要望 など自由にご意見をお書き ください。	

調査へのご協力ありがとうございました。調査へのご質問は下記までご連絡ください。

* 神戸大学医学部保健学科 地域看護学講座

** 茨城キリスト教大学看護学部

* 松田宣子

** 坂間伊津美

連絡先：神戸市須磨区友が丘 7 丁目 10-2

Tel&Fax : 078(796)4530 松田宣子研究室

0 ~ 1 1 M

Because children grow up cheerfully.

子ども総研式 育児支援質問紙 0～11か月児用

子どもが心身共にすこやかに育つには、
子ども自身の自発的な力とそれを支える環境がとても大切です。
そこで、お母さんやご家族の育児のお手伝いをするを
目的にこの質問紙を作りました。
少しでもお役に立てることを願っています。

回答の仕方

1. 中の質問項目に、お考えやお気持ちに近いものを、
いずれか1つだけ選んで*に○をつけてください。
どちらとも決められず、迷うこともあるかと思いますが、
必ずどれか1つにお答えください。
2. 間違えたときは//と消して○をつけ直してください。
3. 検査用紙はのりで閉じてありますが、はがさないで
ください。

※ 本質問紙は複写式ですので、同封の台紙をお使い下さい。

お子さんの名前 _____ 西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日 生まれ 満 _____ か月
 お子さんは _____ 番目 1.男の子 2.女の子
 あなたのお名前 _____ 年齢 _____ 歳

(お名前の記載を望まない方は無記入にしてください)

1. 育児の印象について

A.

- | | はい | ややはい | ややいいえ | いいえ |
|-------------------------|---------|---------|---------|---------|
| 1. 育児に自信が持てない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 2. 子どものことでどうしたらよいかわからない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 3. 子どものことは理解できている | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 4. どのようにしついたらよいかわからない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 5. 母親として不適格と感じる | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 6. 子育てに困難を感じる | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 7. 子どもをうまく育てている | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 8. 育児についていろいろ心配なことがある | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |

B.

- | | | | | |
|--------------------------|---------|---------|---------|---------|
| 1. 子どものことがわずらわしくてイライラする | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 2. 子どもを虐待しているのではないかと思う | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 3. 子どもがかわいいと思えないことがある | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 4. 子どもに八つ当たりしては、反省して落ち込む | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |

2. お父さんやご家族について

- | | はい | ややはい | ややいいえ | いいえ |
|-----------------------------|---------|---------|---------|---------|
| 1. 夫は私や子どものためにとてもよくしてくれる | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 2. 夫は精神的に私を支えてくれている | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 3. 父親としての自覚が足りない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 4. 夫は子育ての大変さなど私の苦勞をわかっていない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 5. 家庭内に関する事柄について夫には期待できない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 6. 夫は育児のことで相談にのってくれる | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 7. 夫は子どもとよく遊び、面倒見がよい | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 8. 夫と気持ちが通じ合っている | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 9. 夫は子どもに関心がない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 10. 夫は仕事や趣味だけに打ち込んでいる | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 11. 夫は子どもをどのように扱ったらよいかわからない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 12. この人と結婚して幸せである | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 13. 夫と話し合う時間が少ない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 14. 家族は子育ての大変さを理解してくれない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 15. 家族は私の趣味や仕事を理解し、協力してくれる | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 16. 家族としてのまとまりを感じる | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 17. 子どもは父親になつていない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 18. 家庭の中がしっくりいかない | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 19. 妊娠中、夫や家族の理解が得られなくて大変だった | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 20. 夫は家事や育児に消極的である | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |
| 21. 夫は幸せな気分でも過ごしている | *-----* | *-----* | *-----* | *-----* |

3.ご自身のようすについて

1. 気が滅入る
2. 不安や恐怖感におそわれる
3. 悲観的になりやすい
4. とても心配性であれこれ気に病む
5. 精神的に不調である

6. 何ともいえず淋しい気持ちにおそわれることがある
7. いてもたってもいられないほど落ち着かない
8. 何事にも敏感に感じすぎてしまう
9. おこりっぽい
10. イライラしている

11. 楽天的でくよくよ考えない
12. 出産後、気持ちが沈み、おっくうで何もする気がしなかった

はい ややはい ややいいえ いいえ

----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*

----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*

----------*-----*
----------*-----*

4.あなたからみた夫のようすについて

1. 精神的に不調である
2. イライラしている
3. 精神的にゆとりがない
4. 沈みがち
5. 悲観的である

6. 眠れない
7. 淋しそう
8. 仕事がうまくいっていない
9. 仕事に行きたがらなかつたり、やる気を失っている

はい ややはい ややいいえ いいえ

----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*

----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*

5.赤ちゃんのとき(生まれてから半年ぐらいまで)、 お子さんはどのような赤ちゃんですか(でしたか)

1. よく泣いてなだめにくい
2. わけもわからず泣く
3. あまり眠らない
4. 抱っこや外に連れ出すなど眠るまでに手がかかる
5. 一晩に何回も起こされる

6. おとなしく手がかからない
7. 一日の生活リズムが一定しない
8. 夜泣きがひどい

はい ややはい ややいいえ いいえ

----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*

----------*-----*
----------*-----*
----------*-----*

6.お子さんについて

A.

- 1.子どもの中に入るのをいやがる
- 2.心配になる行動がある
- 3.指しゃぶりがあがる
- 4.母乳(ミルク)飲みが悪かったり、離乳食をいやがるなど
- 5.夜泣きがある

- 6.おびえたり、ひどくこわがる
- 7.活発で生きいきしている
- 8.発達の全般的な遅れがある
- 9.ひとみしりが強い
- 10.かんしゃくをよく起こす

はい ややはい ややいいえ いいえ

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

----------*-----*

B.

- 1.いつも元気である
- 2.機嫌が変わりやすい
- 3.慢性的な病気がある

はい ややはい ややいいえ いいえ

----------*-----*

----------*-----*

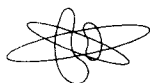
----------*-----*

7.お子さんについて困っていることや心配なこと、相談したいことがあればお書きください。

[補足質問]

1. お父さんの年齢 _____ 歳
2. お子さんは _____ 人
3. 同居しているのは
1. 夫 2. 夫<単身赴任中> 3. 自分の父親 4. 自分の母親 5. 夫の父親 6. 夫の母親
7. その他 (_____)
4. お子さんの昼間の主な養育者は (1つだけ○をつけてください)
1. 母親 2. 保育所 3. 祖父母 4. その他 (_____)
5. あなたのお仕事は (1つだけ○をつけてください)
1. 主婦 2. フルタイム(常勤) 3. パート・アルバイト 4. 自営 5. 休職中
6. その他 (_____)
6. 妊娠、出産の状態について
1. 妊娠中の異常 (1. なし 2. あり『具体的に _____ 』)
2. 妊娠週数 (_____) 週
3. 分娩中の異常 (1. なし 2. あり『具体的に _____ 』)
4. 出産直後の異常 (1. なし 2. あり『具体的に _____ 』)
5. 出生体重 (_____) g
6. 新生児期の異常 (1. なし 2. あり『具体的に _____ 』)
7. 生後1か月以降の異常 (1. なし 2. あり『具体的に _____ 』)

-
- 手引き書、および本質問紙(所見票・プロフィール評定尺度票含む)は著作権法上の保護を受けています。
手引き書、および本質問紙(所見票・プロフィール評定尺度票含む)の一部あるいは全部について、
下記著者代表からの文書による許諾を得ずに、いかなる方法によっても無断で複写・複製することは禁じられています。
 - 手引き書、および本質問紙(所見票・プロフィール評定尺度票含む)に関するご質問は、下記の連絡先にお問い合わせください。



子ども総研式・育児支援質問紙 0~11か月児版

著者代表：川井 尚 (日本子ども家庭総合研究所・愛育相談所)
kawai@aiiku.or.jp
2003年 3月31日 第2版発行

連絡先：恩賜財団母子愛育会・日本子ども家庭総合研究所・愛育相談所
〒106-8580 東京都港区南麻布5-6-8
FAX：03 (3473) 8408

普及協力 財団法人 母子衛生研究会
販売窓口 有限会社 母子保健事業団
〒150-8923 東京都渋谷区神宮前5-53-1
電話：03 (3499) 3120 FAX：03 (3499) 3002

資料 3

育児グループ効果判定評価票

問1 あなたの近頃（ここ1ヵ月くらい）の健康状態はいかがですか。最もあてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | | |
|----------|------------|-------------|-----------|
| 1. 健康である | 2. まあ健康である | 3. やや思わしくない | 4. 思わしくない |
|----------|------------|-------------|-----------|

問2 現在、あなたのお子さんは何人ですか。 () 人

問3 あなたのご職業について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|---------------------|-----------------|---------------|
| 1. 専業主婦 | 2. パートタイム・アルバイト | 3. 自営（手伝いを含む） |
| 4. フルタイム（産休・育休中も含む） | 5. その他（) | |

問4 普段、あなたが、お子さんや育児のことについて困った時、よく相談する相手は誰ですか。最もあてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | | | |
|-----------|----------------|-----------------------|----------|----------|
| 1. 夫 | 2. 実父母 | 3. 義父母 | 4. きょうだい | 5. 近所の知人 |
| 6. 友人 | 7. 育児グループのメンバー | 8. 保健医療の専門職（保健師や病院など） | | |
| 9. その他（) | | | | |

問5 あなたのご家族の形態について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | | |
|-----------------------|-----------|-----------|--|
| 1. 核家族（夫が単身赴任中の家庭も含む） | | | |
| 2. 三世代または四世代家族 | 3. ひとり親家族 | 4. その他（) | |

問6 今のお住まいにはどのくらいの期間住んでいますか。 約 () 年 () か月

問7 育児グループに参加しようと思った主な理由は次のうちどれですか。最もあてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|---------------------------------|----------------------------|
| 1. 自分に友人や相談相手がほしかった | 2. 育児の情報を得られる場がほしかった |
| 3. 育児に不安があった | 4. 外出できる場がほしかった |
| 5. 子どもに友だちがほしかった | 6. 子どもが様々な遊びや体験をできる場がほしかった |
| 7. ストレスを解消したりリフレッシュしたりする場がほしかった | |
| 8. なんとなく | 9. その他（) |

資料 3

育児グループ効果判定評価票

問 8 現在あなたが参加されている育児グループについて、知ったきっかけは何ですか。次のうち、最もあてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1. 市町村からの広報で知った | 2. ミニコミ誌や新聞、雑誌、チラシなどで知った |
| 3. 友人や知人から知った | 4. かかりつけの病院や保健センターなどから紹介された |
| 5. 自分で電話帳やインターネットなどから探した | 6. その他 () |

問 9 育児グループに加入した時、対象となったお子さんは何歳でしたか。 () 歳

問 10 育児グループに加入した時、お子さんは何人でしたか。 () 人

問 11 育児グループへの加入期間はどのくらいですか。 約 () 年 () か月

問 12 現在、育児グループの集まりにはどの程度参加していますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|---------------|-------------|--------------|
| 1. ほぼ毎回参加している | 2. 時々参加している | 3. たまに参加している |
|---------------|-------------|--------------|

問 13 育児グループに「参加前」と「参加するようになってから」のあなたの生活や気持ちなどについてうかがいます。①グループ参加前、②グループに参加するようになってから（最近）の様子についてそれぞれあてはまる番号に○をつけてください。

	①グループ参加前の生活や気持ち				②最近の生活や気持ち			
	とても そうで あった	まあ そうで あった	あまり そうで なかった	まったく そうで なかった	とても そうで ある	まあ そうで ある	あまり そうで ない	まったく そうで ない
1) 「育児は楽しい」と感じる	4	3	2	1	4	3	2	1
2) 生活が規則的である	4	3	2	1	4	3	2	1
3) 子どもの日々の成長を楽しみに感じる	4	3	2	1	4	3	2	1
4) ストレスの解消や気分転換がうまくできている	4	3	2	1	4	3	2	1
5) 子どもに社会性が育っている	4	3	2	1	4	3	2	1
6) 子育てのしかたに困ったり悩んだりすることがある	4	3	2	1	4	3	2	1
7) 生活にはりや充実感を感じる	4	3	2	1	4	3	2	1
8) 子どもに対してイライラすることがある	4	3	2	1	4	3	2	1
9) 夫とよく会話をする	4	3	2	1	4	3	2	1

育児グループ効果判定評価票

	①グループ参加前の生活や気持ち				②最近の生活や気持ち			
	とても そうで あった	まあ そうで あった	あまり そうで なかった	まったく そうで なかった	とても そうで ある	まあ そうで ある	あまり そうで ない	まったく そうで ない
10) 育児や日常生活について話したり相談できる友人がいる	4	3	2	1	4	3	2	1
11) 子どもの成長発達や行動について不安がある	4	3	2	1	4	3	2	1
12) 子どもの言うことや行動に対して寛容な対応をしている	4	3	2	1	4	3	2	1
13) 子どもとうまく遊ぶことができる	4	3	2	1	4	3	2	1
14) 「育児はつらい」と感じる	4	3	2	1	4	3	2	1
15) 子どもを預けあったり家族ぐるみの付き合いをする友人がいる	4	3	2	1	4	3	2	1
16) 子育てに自信が持てない	4	3	2	1	4	3	2	1
17) 他人の子どもの面倒をみる ことがある	4	3	2	1	4	3	2	1
18) 育児の情報に迷うことがある	4	3	2	1	4	3	2	1
19) 自分の子どもの可愛いところや 良いところを感じる	4	3	2	1	4	3	2	1
20) 子どもと一緒に散歩や外遊びを する	4	3	2	1	4	3	2	1
21) 自分の気持ちにゆとりがある	4	3	2	1	4	3	2	1
22) 「私だけ育児がうまくできない のではないか」と思う	4	3	2	1	4	3	2	1
23) 住んでいる地域の行事や催しに 出かける	4	3	2	1	4	3	2	1
24) 友人などに育児の情報提供や アドバイスをすることがある	4	3	2	1	4	3	2	1
25) 他人の子どもに目を配ることが できる	4	3	2	1	4	3	2	1

育児グループ効果判定評価票

問 14 育児グループに参加していて、あなたはどのように感じていますか。

それぞれ最もあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

	とても思う	まあ思う	あまり 思わない	まったく 思わない
1) 活動（集まり）の頻度に満足している	4	3	2	1
2) 活動（集まり）の内容に満足している	4	3	2	1
3) メンバーとの関係は良好であると思う	4	3	2	1
4) 他のグループと交流したいと思う	4	3	2	1
5) 保健医療や育児の専門家からのアドバイスが ほしい	4	3	2	1
6) 育児グループに参加してよかったと思う	4	3	2	1

問 15 あなたの人生に対する感じ方についてうかがいます。それぞれ、1 から 7 の最もあてはまる番号に
ひとつ○を付けてください。

1) あなたは、自分のまわりで起こっていることがどうでもいい、という気持ちになることがありますか？

1.....2.....3.....4.....5.....6.....7

まったくない

とてもよくある

2) あなたは、これまでに、よく知っていると思っていた人の、思わぬ行動に驚かされたことがありますか？

1.....2.....3.....4.....5.....6.....7

まったくなかった

いつもそうだった

3) あなたは、あてにしていた人ががっかりさせられたことがありますか？

1.....2.....3.....4.....5.....6.....7

まったくなかった

いつもそうだった

4) 今まで、あなたの人生には、明確な目標や目的が

1.....2.....3.....4.....5.....6.....7

まったくなかった

あった

5) あなたは、不当な扱いを受けているという気持ちになることがありますか？

1.....2.....3.....4.....5.....6.....7

よくある

まったくない

資料 3

育児グループ効果判定評価票

6) あなたは、不慣れな状況にいると感じ、どうすればよいかわからない、と感じることがありますか？

1.....2.....3.....4.....5.....6.....7

とてもよくある

まったくない

7) あなたが毎日していることは、

1.....2.....3.....4.....5.....6.....7

喜びと満足を与えてくれる

つらく退屈である

8) あなたは、気持ちや考えが非常に混乱することがありますか？

1.....2.....3.....4.....5.....6.....7

とてもよくある

まったくない

9) あなたは、本当なら感じたくないような感情をいだいてしまうことがありますか？

1.....2.....3.....4.....5.....6.....7

とてもよくある

まったくない

10) どんなに強い人でさえ、ときには「自分はダメな人間だ」と感じることもあるものです。

あなたは、これまで、「自分はダメな人間だ」と感じたことがありますか？

1.....2.....3.....4.....5.....6.....7

まったくなかった

よくあった

11) 何かが起きたとき、ふつう、あなたは、

1.....2.....3.....4.....5.....6.....7

そのことを過大に評価したり、

適切な見方をしてきた

過小に評価してきた

12) あなたは、日々の生活で行っていることにほとんど意味がない、と感じることがありますか？

1.....2.....3.....4.....5.....6.....7

よくある

まったくない

13) あなたは、自制心を保つ自信がなくなることがありますか？

1.....2.....3.....4.....5.....6.....7

よくある

まったくない

問 16 現在のあなたの年齢をおしえてください。

() 歳

【結果】

1. 対象家族について

対象家族の背景は、表 1-1、1-2 に示した。母親の年齢は、平均 31.5 ± 3.7 歳、職業状態は、専業主婦が 112 人 (77.8%) であった。子どもの人数は、「1 人」が 84 人 (58.3%)、対象児の月齢は平均 9.0 ± 3.2 ヶ月であり、核家族が 130 人 (90.3%) を占めていた。現在の住まいでの居住期間は、3 年以内が 87 人 (60.4%) であった。普段、子どもや育児のことについて困った時、母親が最もよく相談する相手は、「夫」76 人 (52.8%)、「実父母」32 人 (22.2%) であり、相談相手として身近な家族が 75% を占めた。

対象児を妊娠、出産した時の状態は、表 2-2 のとおりである。母親の出産直後の異常、対象児の生後 1 ヶ月以降の異常は、「なし」がともに 9 割であった。最近の母親の自覚的健康度も表 2-1 のとおり、「健康である」73 人 (50.7%)、「まあ健康である」60 人 (41.7%)、「やや思わしくない」8 人 (5.6%)、「思わしくない」3 人 (2.1%) であり、今回、対象とした母子の健康状態は概ね良好であった。

2. 育児困難感について

育児への心配や戸惑い、不適格感から成る「育児困難感 I」の分布を表 3 に示した。「子どものことは理解できている」、「子どもをうまく育てている」について、7 割以上の人が「(やや) はい」と答えているが、「育児についていろいろ心配なことがある」と答えた人も約 6 割であった。また、36 人 (25.0%) が「母親として不適格と感じる」と答えた。

子どもに対するネガティブな感情から成る「育児困難感 II」は、通常、1 歳児以降の母親に対して適用されるものであるが、今回の対象の中に 1 歳児以降の児も含んでいるため、表 4 として示した。「子どもに八つ当たりしては、反省して落ち込む」と答えた人は 46 人 (31.9%) であり、子どもへのネガティブな感情を持つことで自己嫌悪にいたる人が多かった。ごく少数ではあるが、「子どもを虐待しているのではないかと思う」との回答もみられた。

「育児困難感 I」がランク 4 以上の群とランク 3 以下の 2 群で、子ども総研式育児支援質問紙の他の 5 領域「夫・父親・家庭機能の問題」、「母親の不安・抑うつ傾向」、「夫の心身不調」、「Difficult Baby」、「子どもの心身状態」の標準得点を比較した。その結果、表 5 に示したように、「育児困難感 I」がランク 4 以上の群は、「夫の心身不調」を除く 4 領域で、有意に得点が高かった。

3. 育児グループへの参加状況

育児グループに参加しようと思った主な理由は、表 6 のとおり、「子どもが様々な遊びや体験をできる場がほしかった」51 人 (35.4%) が最も多く、ついで、「自分に友人や相談相手がほしかった」36 人 (25.0%)、「子どもに友だちがほしかった」16 人 (11.1%) であった。

現在参加している育児グループについて知ったきっかけは、「友人や知人から」55人（38.2%）、「市町村からの広報で」53人（36.8%）、「病院や保健センターなどで」15人（10.4%）の順であった。

育児グループへの加入期間は平均 9.4 ± 11.0 ヶ月であり、集まりへの参加頻度は、「ほぼ毎回参加している」77人（53.5%）、「時々参加している」39人（27.1%）、「たまに参加している」20人（13.9%）であった。

4. 育児グループ活動のとらえかた

現在所属している育児グループの活動（集まり）について、どのようにとらえているかを表7に示した。活動の頻度に満足している人は約8割、内容に満足している人は85%にのぼった。また、ほとんどの人が、「メンバーとの関係は良好だと思う」、「育児グループに参加してよかったと思う」と答えた。

育児グループへの加入期間、子どもの人数による活動のとらえかたを示したのが表8である。加入期間が3ヶ月未満と3ヶ月以上では活動のとらえかたに差はなかった。子どもの人数が1人と2人以上では、1人の場合に「他のグループと交流したいと思う」、「保健医療や育児の専門家からのアドバイスがほしい」と思っている人が有意に多かった。

5. 育児グループ参加前後における気持ちや生活の変化

育児グループの効果を検討するため、「参加前」と「参加するようになってから（最近）」の気持ちや生活について、先行研究をもとに作成した25項目（4段階リッカート尺度）で尋ねた。「とてもそうであった（ある）＝4点」、「まあそうであった（ある）＝3点」、「あまりそうでなかった（ない）＝2点」、「まったくそうでなかった（ない）＝1点」として得点化し、t検定を行った結果が表9である。

「子育てに自信が持てない」、「子どもの成長発達や行動について不安がある」、「子どもに対してイライラすることがある」など、育児への不安やイライラする気持ちは、育児グループに参加するようになってから有意に減少していた。

「子どもの言うことや行動に対して寛容な対応をしている」、「育児は楽しいと感じる」、「自分の子どもの可愛いところや良いところを感じる」など、育児を楽しむ気持ちや子どもに合わせた余裕のある対応は、育児グループ参加後に有意に増加していた。

「生活にはりや充実感を感じる」、「ストレスの解消や気分転換がうまくできている」、「子どもに社会性が育っている」など、母子の生活面は育児グループ参加後にポジティブに変化していた。

「他人の子どもに目を配ることができる」、「育児や日常生活について話したり相談できる友人がいる」、「住んでいる地域の行事や催し物に出かける」など、ソーシャルネットワークは育児グループ参加後に有意に増加していた。

「夫とよく会話をする」については、育児グループ参加前で平均3.21点と、比較的高い

得点を示しており、参加後の有意な変化はみられなかった。

6. 育児グループ参加前後の気持ちや生活の変化量に関連する要因

子どもの人数、育児グループへの加入期間別にみた、参加前後の気持ちや生活の変化量を表 10 に示した。

「子どもの人数が 1 人」と「2 人以上」の 2 群で見ると、「自分の気持ちにゆとりがある」、「住んでいる地域の行事や催しに出かける」は、子どもが 1 人の場合、グループ参加後の変化が有意に大きかった。一方、「子どもを預けあったり家族ぐるみの付き合いをする友人がいる」は、子どもが 2 人以上の場合に有意に変化が大きかった。

「グループ加入 3 ヶ月未満」と「3 ヶ月以上」の 2 群で見ると、3 ヶ月以上の場合に、11 項目にわたってグループ参加後の変化が有意に大きかった。特に、ソーシャルネットワークでは、6 項目中 5 項目で有意差が示された。

表には示していないが、「育児グループに毎回参加している」群は、そうでない群に比べ、「子どもと一緒に散歩や外遊びをする」の変化量が有意に大きかった ($t=2.62$, $p=0.010$)。育児グループの運営主体別の変化量に有意差はみられなかった。

表1-1 対象家族の背景

N=144

	カテゴリー	分布
母親の年齢		平均31.5±3.7歳
父親の年齢		平均33.3±4.4歳
母親の職業	専業主婦	112人 (77.8%)
	フルタイム	5人 (3.5%)
	パート・アルバイト	4人 (2.8%)
	自営	4人 (2.8%)
	休職中	11人 (7.6%)
	その他	0人 (0.0%)
	無回答	8人 (8.0%)
家族形態	核家族 (夫が単身赴任中の家庭も含む)	130人 (90.3%)
	三世代または四世代家族	11人 (7.6%)
	ひとり親家族	2人 (1.4%)
	その他	0人 (0.0%)
	無回答	1人 (0.7%)
子どもの人数		平均1.5±0.6人
	1人	84人 (58.3%)
	2人	54人 (37.5%)
	3人	5人 (3.5%)
	4人	1人 (0.7%)
	無回答	0人 (0.0%)
対象児の月齢 (満)		平均9.0±3.2ヶ月
	0~3ヶ月	5人 (3.5%)
	4~6ヶ月	19人 (13.2%)
	7~9ヶ月	38人 (26.4%)
	10~12ヶ月	38人 (26.4%)
	13~14ヶ月	17人 (11.8%)
	無回答	27人 (18.8%)
対象児の性別	男児	57人 (39.6%)
	女児	61人 (42.4%)
	無回答	26人 (26.0%)
対象児の出生順位	第1子	70人 (48.6%)
	第2子	47人 (32.6%)
	第3子	6人 (4.2%)
	第4子	0人 (0.0%)
	無回答	21人 (14.6%)
参加先育児グループの運営方法	保健センターなど行政主導型	9人 (6.3%)
	保健センターなど行政との協同型	52人 (36.1%)
	全くの自主型	39人 (27.1%)
	その他	11人 (7.6%)
	無回答	33人 (22.9%)

表1-2 対象家族の背景

N=144

カテゴリー	分布
現在の住まいでの居住期間	
3年以内	87人 (60.4%)
3年超～6年以内	47人 (32.6%)
6年超	10人 (6.9%)
子どもについて最もよく相談する相手	
夫	76人 (52.8%)
実父母	32人 (22.2%)
義父母	2人 (1.4%)
きょうだい	7人 (4.9%)
近所の知人	6人 (4.2%)
友人	11人 (7.6%)
育児グループのメンバー	3人 (2.1%)
保健医療の専門職	3人 (2.1%)
その他	4人 (2.8%)

表2-1 最近の母親の自覚的健康度

カテゴリー	分布
健康である	73人 (50.7%)
まあ健康である	60人 (41.7%)
やや思わしくない	8人 (5.6%)
思わしくない	3人 (2.1%)

表2-2 対象児を妊娠、出産した時の状態

N=144

	カテゴリー	分布
妊娠週数		平均38.9±1.9週
	36週未満	7人 (4.9%)
	37～41週	114人 (79.2%)
	42週以上	6人 (4.2%)
	無回答	17人 (11.8%)
出生体重		平均2957.7±452.8g
	2500g未満	21人 (14.6%)
	2500～4000g未満	115人 (79.9%)
	4000g以上	1人 (0.7%)
	無回答	7人 (4.9%)
妊娠中の異常	なし	116人 (80.6%)
	あり	19人 (13.2%)
	無回答	9人 (6.3%)
分娩中の異常	なし	124人 (86.1%)
	あり	13人 (9.0%)
	無回答	7人 (4.9%)
出産直後の異常	なし	128人 (88.9%)
	あり	8人 (5.6%)
	無回答	8人 (5.6%)
新生児期の異常	なし	126人 (87.5%)
	あり	11人 (7.6%)
	無回答	7人 (4.9%)
生後1ヶ月以降の異常	なし	129人 (89.6%)
	あり	6人 (4.2%)
	無回答	9人 (6.3%)

表3 育児困難感 I

N=144

	カテゴリー	分布	
育児困難感 I			
	育児に自信が持てない	はい	3人 (2.1 %)
		ややはい	33人 (22.9 %)
		ややいいえ	56人 (38.9 %)
いいえ		52人 (36.1 %)	
子どものことでどうしたらよいかわからない	はい	1人 (0.7 %)	
	ややはい	37人 (25.7 %)	
	ややいいえ	53人 (36.8 %)	
	いいえ	53人 (36.8 %)	
子どものことは理解できている	はい	27人 (18.8 %)	
	ややはい	85人 (59.0 %)	
	ややいいえ	28人 (19.4 %)	
	いいえ	4人 (2.8 %)	
どのようにしつけたらよいかわからない	はい	8人 (5.6 %)	
	ややはい	58人 (40.3 %)	
	ややいいえ	49人 (34.0 %)	
	いいえ	29人 (20.1 %)	
母親として不適合と感じる	はい	7人 (4.9 %)	
	ややはい	29人 (20.1 %)	
	ややいいえ	47人 (32.6 %)	
	いいえ	61人 (42.4 %)	
子育てに困難を感じる	はい	7人 (4.9 %)	
	ややはい	40人 (27.8 %)	
	ややいいえ	34人 (23.6 %)	
	いいえ	63人 (43.8 %)	
子どもをうまく育てている	はい	23人 (16.0 %)	
	ややはい	80人 (55.6 %)	
	ややいいえ	40人 (27.8 %)	
	いいえ	1人 (0.7 %)	
育児についていろいろ心配なことがある	はい	24人 (16.7 %)	
	ややはい	59人 (41.0 %)	
	ややいいえ	38人 (26.4 %)	
	いいえ	23人 (16.0 %)	

表4 育児困難感Ⅱ（参考）

N=144

	カテゴリー	分布
育児困難感Ⅱ		
子どものことがわずらわしくてイライラする	はい	7人 (4.9 %)
	ややはい	24人 (16.7 %)
	ややいいえ	49人 (34.0 %)
	いいえ	64人 (44.4 %)
子どもを虐待しているのではないかと思う	はい	2人 (1.4 %)
	ややはい	8人 (5.6 %)
	ややいいえ	20人 (13.9 %)
	いいえ	114人 (79.2 %)
子どもがかawaiiと思えないことがある	はい	3人 (2.1 %)
	ややはい	14人 (9.7 %)
	ややいいえ	12人 (8.3 %)
	いいえ	115人 (79.9 %)
子どもに八つ当たりしては、反省して落ち込む	はい	12人 (8.3 %)
	ややはい	34人 (23.6 %)
	ややいいえ	23人 (16.0 %)
	いいえ	74人 (51.4 %)

表5 育児困難感 I と他の5領域との関連

		N	得点	t 値	p 値
<u>夫・父親・家庭機能の問題</u>					
育児困難感 I	ランク3以下	91	2.80	-2.690	0.008
	ランク4以上	51	3.29		
<u>母親の不安・抑うつ傾向</u>					
育児困難感 I	ランク3以下	92	2.81	-6.332	0.000
	ランク4以上	52	3.77		
<u>夫の心身不調</u>					
育児困難感 I	ランク3以下	92	2.97	-1.810	0.072
	ランク4以上	52	3.26		
<u>Difficult Baby</u>					
育児困難感 I	ランク3以下	92	2.78	-3.463	0.001
	ランク4以上	52	3.42		
<u>子どもの心身状態</u>					
育児困難感 I	ランク3以下	92	3.00	-2.557	0.012
	ランク4以上	51	3.53		

表6 育児グループへの参加状況

N=144

カテゴリー		分布
参加の主な理由	子どもが様々な遊びや体験をできる場がほしかった	51人 (35.4%)
	自分に友人や相談相手がほしかった	36人 (25.0%)
	子どもに友だちがほしかった	16人 (11.1%)
	育児情報を得られる場がほしかった	14人 (9.7%)
	外出できる場がほしかった	10人 (6.9%)
	ストレスを解消したりリフレッシュできる場がほしかった	10人 (6.9%)
	なんとなく	3人 (2.1%)
	その他	3人 (2.1%)
	無回答	1人 (0.7%)
育児グループを知ったきっかけ	友人や知人から	55人 (38.2%)
	市町村からの広報で	53人 (36.8%)
	病院や保健センターなどで	15人 (10.4%)
	ミニコミ誌や新聞、雑誌、チラシなどで	9人 (6.3%)
	電話帳やインターネットから	4人 (2.8%)
	その他	6人 (4.2%)
	無回答	2人 (1.4%)
加入期間		平均9.4±11.0ヶ月
	0～3ヶ月	46人 (31.9%)
	4～6ヶ月	23人 (16.0%)
	7～9ヶ月	24人 (16.7%)
	10～12ヶ月	19人 (13.2%)
	13ヶ月以上	25人 (17.4%)
	無回答	7人 (4.9%)
集まりへの参加頻度	ほぼ毎回参加している	77人 (53.5%)
	時々参加している	39人 (27.1%)
	たまに参加している	20人 (13.9%)
	無回答	8人 (5.6%)

表7 育児グループ活動のとらえかた

N=144

	カテゴリー	分布
活動の頻度に満足している	とても思う	31人 (21.5%)
	まあ思う	82人 (56.9%)
	あまり思わない	25人 (17.4%)
	まったく思わない	3人 (2.1%)
	無回答	3人 (2.1%)
活動の内容に満足している	とても思う	28人 (19.4%)
	まあ思う	95人 (66.0%)
	あまり思わない	18人 (12.5%)
	まったく思わない	1人 (0.7%)
メンバーとの関係は良好だと思う	とても思う	44人 (30.6%)
	まあ思う	86人 (59.7%)
	あまり思わない	8人 (5.6%)
	まったく思わない	3人 (2.1%)
他のグループと交流したいと思う	とても思う	39人 (27.1%)
	まあ思う	67人 (46.5%)
	あまり思わない	34人 (23.6%)
	まったく思わない	2人 (1.4%)
	無回答	2人 (1.4%)
保健医療や育児の専門家からのアドバイスがほしい	とても思う	59人 (41.0%)
	まあ思う	59人 (41.0%)
	あまり思わない	23人 (16.0%)
	まったく思わない	1人 (0.7%)
育児グループに参加してよかったと思う	とても思う	94人 (65.3%)
	まあ思う	46人 (31.9%)
	あまり思わない	1人 (0.7%)
	まったく思わない	1人 (0.7%)
	無回答	2人 (1.4%)

表8 加入期間、子どもの人数によるグループ活動のとらえかた

【育児グループへの加入期間別】				
	あまり思わない/全く思わない	とても思う/まあ思う	χ^2 値	p値
<u>活動の頻度に満足している</u>				
3ヶ月未満	4 (11.1 %)	32 (88.9 %)	1.847	0.217
3ヶ月以上	21 (21.4 %)	77 (78.6 %)		
<u>活動の内容に満足している</u>				
3ヶ月未満	3 (8.1 %)	34 (91.9 %)	0.931	0.400
3ヶ月以上	14 (14.3 %)	84 (85.7 %)		
<u>メンバーとの関係は良好だと思う</u>				
3ヶ月未満	3 (8.3 %)	33 (91.7 %)	0.054	0.728
3ヶ月以上	7 (7.1 %)	91 (92.9 %)		
<u>他のグループと交流したいと思う</u>				
3ヶ月未満	12 (32.4 %)	25 (67.6 %)	1.421	0.269
3ヶ月以上	22 (22.4 %)	76 (77.6 %)		
<u>保健医療や育児の専門家からのアドバイスがほしい</u>				
3ヶ月未満	3 (8.1 %)	34 (91.9 %)	3.260	0.081
3ヶ月以上	21 (21.4 %)	77 (78.6 %)		
<u>育児グループに参加してよかったと思う</u>				
3ヶ月未満	0 (0.0 %)	37 (100.0 %)	0.380	1.000
3ヶ月以上	1 (1.0 %)	97 (99.0 %)		

【子どもの人数別】				
	あまり思わない/全く思わない	とても思う/まあ思う	p値	有意確率
<u>活動の頻度に満足している</u>				
子どもが1人	14 (17.3 %)	67 (82.7 %)	0.793	0.400
子どもが2人以上	14 (23.3 %)	46 (76.7 %)		
<u>活動の内容に満足している</u>				
子どもが1人	11 (13.4 %)	71 (86.6 %)	0.000	1.000
子どもが2人以上	8 (13.3 %)	52 (86.7 %)		
<u>メンバーとの関係は良好だと思う</u>				
子どもが1人	5 (6.2 %)	76 (93.8 %)	0.702	0.528
子どもが2人以上	6 (10.0 %)	54 (90.0 %)		
<u>他のグループと交流したいと思う</u>				
子どもが1人	13 (15.9 %)	69 (84.1 %)	9.252	0.003
子どもが2人以上	23 (38.3 %)	37 (61.7 %)		
<u>保健医療や育児の専門家からのアドバイスがほしい</u>				
子どもが1人	6 (7.3 %)	76 (92.7 %)	12.693	0.001
子どもが2人以上	18 (30.0 %)	42 (70.0 %)		
<u>育児グループに参加してよかったと思う</u>				
子どもが1人	1 (1.2 %)	81 (98.8 %)	0.050	1.000
子どもが2人以上	1 (1.7 %)	59 (98.3 %)		

表9 育児グループ参加前後における気持ちや生活の変化

	N	参加前	参加後 (最近)	t 値	p 値
育児への不安やイライラ					
1) 育児の情報に迷うことがある	144	2.42	2.21	3.684	0.000
2) 「私だけ育児がうまくできないのではないか」と思う	143	1.96	1.76	4.123	0.000
3) 子育てに自信が持てない	143	2.20	1.96	4.895	0.000
4) 子どもの成長発達や行動について不安がある	143	2.13	1.92	4.123	0.000
5) 子育てのしかたに困ったり悩んだりすることがある	143	2.76	2.46	5.165	0.000
6) 子どもに対してイライラすることがある	142	2.37	2.16	3.698	0.000
7) 「育児はつらい」と感じる	144	2.14	1.85	4.771	0.000
育児の楽しみと子どもへの対応					
8) 子どもの言うことや行動に対して寛容な対応をしている	143	2.74	3.04	-5.827	0.000
9) 子どもとうまく遊ぶことができている	143	2.67	3.06	-8.222	0.000
10) 子どもと一緒に散歩や外遊びをする	143	2.94	3.29	-5.933	0.000
11) 子どもの日々の成長を楽しみに感じる	139	3.60	3.78	-4.799	0.000
12) 「育児は楽しい」と感じる	141	3.06	3.39	-6.072	0.000
13) 自分の子どもの可愛いところや良いところを感じる	144	3.43	3.67	-4.997	0.000
母子の生活					
14) 生活にはりや充実感を感じる	142	2.80	3.15	-6.006	0.000
15) 生活が規則的である	143	2.85	3.25	-6.339	0.000
16) 自分の気持ちにゆとりがある	143	2.55	3.01	-7.669	0.000
17) ストレスの解消や気分転換がうまくできている	143	2.59	3.26	-9.985	0.000
18) 子どもに社会性が育っている	142	2.45	3.13	-10.756	0.000
ソーシャルネットワーク					
19) 友人などに育児の情報提供やアドバイスをすることがある	143	2.26	2.84	-9.692	0.000
20) 他人の子どもに目を配ることができる	143	2.43	2.93	-8.986	0.000
21) 他人の子どもの面倒をみることがある	144	1.74	2.15	-6.797	0.000
22) 子どもを預けあったり家族ぐるみの付き合いをする友人がいる	144	1.89	2.20	-5.112	0.000
23) 育児や日常生活について話したり相談できる友人がいる	143	2.74	3.43	-8.958	0.000
24) 住んでいる地域の行事や催しに出かける	144	2.19	2.78	-8.888	0.000
夫とのコミュニケーション					
25) 夫とよく会話をする	143	3.21	3.27	-1.575	0.118

t 検定

表10 子どもの人数、育児グループへの加入期間別からみた育児グループ参加前後の変化量

	子どもの人数			加入期間		
	1人	2人以上	p値	3ヶ月未満	3ヶ月以上	p値
育児への不安やイライラ						
1) 育児の情報に迷うことがある						
2) 「私だけ育児がうまくできないのではないか」と思う						
3) 子育てに自信が持てない						
4) 子どもの成長発達や行動について不安がある				-0.05	-0.27	0.021
5) 子育てのしかたに困ったり悩んだりすることがある						
6) 子どもに対してイライラすることがある						
7) 「育児はつらい」と感じる				-0.05	-0.36	0.002
育児の楽しみと子どもへの対応						
8) 子どもの言うことや行動に対して寛容な対応をしている						
9) 子どもとうまく遊ぶことができている				0.19	0.48	0.008
10) 子どもと一緒に散歩や外遊びをする						
11) 子どもの日々の成長を楽しみに感じる						
12) 「育児は楽しい」と感じる				0.17	0.39	0.032
13) 自分の子どもの可愛いところや良いところを感じる				0.08	0.29	0.008
母子の生活						
14) 生活にはりや充実感を感じる						
15) 生活が規則的である				0.19	0.47	0.030
16) 自分の気持ちにゆとりがある	0.59	0.28	0.011			
17) ストレスの解消や気分転換がうまくできている						
18) 子どもに社会性が育っている						
ソーシャルネットワーク						
19) 友人などに育児の情報提供やアドバイスをすることがある				0.25	0.72	0.000
20) 他人の子どもに目を配ることができる				0.22	0.63	0.000
21) 他の人の子どもの面倒をみることがある				0.22	0.50	0.030
22) 子どもを預けあったり家族ぐるみの付き合いをする友人がいる	0.20	0.47	0.043	0.11	0.40	0.014
23) 育児や日常生活について話したり相談できる友人がいる				0.38	0.82	0.002
24) 住んでいる地域の行事や催しに出かける	0.74	0.38	0.008			
夫とのコミュニケーション						
25) 夫とよく会話をする						

t検定

ケース番号	困っていることや心配なこと
1	いろいろ考えるとしんどくなるので、あまり考えないように努力している。私自身、病院に行きたいが、赤ちゃんを連れての通院は困難である。赤ちゃんを連れて行っても快適な病院があるとうれしい。
2	上の子と下の子に同時に接するとき、どちらを優先したらいいか？
3	核家族や共働きが当たり前の世の中になってきているのに、子ども達だけで安心して登下校や外で遊ぶ世の中にはなっていない。少子化対策は、助成金やお金対策ばかりで、教育や安全、道徳など本当に大切に事は、未来に向けて発展せず衰退していつか衰退している気がして子どもの将来の地球が心配。
4	離乳食の食べがよくなって、体重の増えが少なく、同じくらいの子とくらべると体が一回り小さい気がする。
5	寝つきが悪く、昼寝や夜によく目を覚ます。おっぱい以外ではなかなか寝てくれないので、自分が病気の時でも他人に任せることができない。夜にぐっすり眠ってほしいので、外遊びをさせようとしているが、内気な性格なのか、母親べったりで全然遊んでくれない
6	1歳くらいまでは大変だと思っ事が多かったが、今は大変な事も少なくなり、私が仕事に戻ったこともあるがお互いいい関係（距離）が保てていると思う。
7	夜泣きがひどくて何度も起こされる。大人には愛想よく、自分から寄って行くが、同じ年頃の子どもの輪には怖がって入れない。
8	完母で1年間頑張ってきたが、乳児湿疹がひどく、食事にも気をつけてきたのになかなか治らずアレルギーがあるので、今後どうなるのか心配。出産後、食事は癖内先生の粗食のすすめに感動し、粗食をとっている（たまに甘い物を食べてしまうが）。かかっている小児クリニックの担当医は心配ないと言っているが…。アレルギー専門の病院をセカンドオピニオンで紹介してもらっているがまだ行っていない。
9	夜中口が淋しいのかお乳をほしがるので卒乳できるか気になる（くわえて1分もしないうちに寝る）。離乳食の好き嫌いが出てきてあまり噛まない。
10	時々かんしゃくを起こして、私の顔などを叩くので子供同士で遊ばせるのが心配。遊んでいる時に他の子がおもちゃを取りに来たりするとすぐに手を上げようとす。手が目に当たったりするので、目が離せない。
11	子供についてではないが、同居の義父母と教育方針が合わず不安。色々あって授かった子なので、私自身意気込みすぎるところはあると思うが、義父母に子育てに関られるのが嫌なところがある。子供が物心ついたら、それが伝わってしまうのではないかと心配。

表11-2

ケース番号	困っていることや心配なこと
12	満1歳になるが未だに2～3時間おきに夜起きるのでいつになったら寝てくれるのだろうかと思う。
13	離乳食の量が増えない。
14	よく食べ、よくミルクを飲み、よく眠るので、体重がどんどん増えている。ハイハイなどできるようになればひきしましきし始めるが、ハイハイを始める様子はまだない。7ヶ月でもう他の赤ちゃんや人と会う機会を増やすべきか悩む(子供の為にはどの程度そのような機会をもつべきなのか?)。
15	下の子が産まれてから上の子の赤ちゃん返りがひどく、すぐに泣いたり、いたずらをしたりするようになった。下の子はまだ寝ていることが多いのであまり手がかからないが、わがままをいってぐずる上の子をどう言うべきか悩む(子供のかかわりからなくなる。時々きつく怒り過ぎてしまったりするので、自分でもドキッとする時がある)。
16	母乳以外、あまり飲みたがらないので、今後の離乳の進め方が分からない。
17	夜泣きが一時期ひどく、寝れない間辛かった。一才過ぎまで、1～2時間おきに起きていた。
18	寝かし付けは添い乳なので、ずっとこのままなのかと不安になる。子供自体には特に心配していないが、自分の気持ちによって子供への接し方が違うので、なんとかしたい。とてもかわいく思える時もあるが、とてもうっとうしく思う時もあり、どうしようもなく育児が辛い時がある。存在にイライラする時があるので、話し掛けただけで、怒ってしまうこともある。
19	二人目はまだ4ヶ月目なので特に無いが、一人目のやきもちがすごい。一人目は指しゃぶりもするし、少し思うようにいかないと泣いて、どうしようもない時があったりするので二人目もそんな風になっただろうか?と少し心配。
20	生後2、3ヶ月は驚く位よく寝ている子だったが、最近は昼寝がとて短くて困っている。一回の昼寝は30分位で1日に3回位昼寝をする。寝かし付けるまでの時間が寝ている時間よりも長い位で、なかなか落ち着いた気がしない。もう少し昼寝をまとめてくれれば家事も落ち着いてできるのにとイライラすることがよくある。上の子とゆとり過ごすつもりで遊んでやれたい。しかし最近気づいたが、育児が大変でイライラしているのではなく、家事を子供の機嫌の良い間に済ますことが大変だと感じている。家の用事がどんどんたまっていくことにイライラしているんだと思いついて、最近は少しでも家事を済ませようと思っている。
21	夜寝る前に哺乳瓶でミルクを飲むのがやめられないことが心配。それ以外はストローで飲むが寝る前は哺乳瓶でないと駄目。離乳食は固い物を嫌がって出す。なかなか食べない。
22	大きく産まれて母乳をよく飲み、離乳食をよく食べているが、太りすぎと言われるのが辛い。赤ちゃんにも肥満があるとは思いますが、みんながみんな標準内ではないので、もう少し言い方を考えてほしい時があった。

表11-3

ケース番号	困っていることや心配なこと
23	相談相手がいない。夜泣きがひどい時に夫は何もしてくれない。イライラしたりして一人きりになりたいのになれない時がある。子供の泣き声を聞くのが辛い。
24	耳に障害があり、片方の聴力が低いので、将来的にどういう風にしていけばいいのか心配。外見的事がともなっているのでもなっていないか、ひきこもりにならないかと気になるが、夫に言うところにはその子個人の性格の問題だからどうしようもない」とあまり心配していない様子である。
25	もうすぐ7ヶ月になるのに寝返りが出来ずお座りもグラグラする。たまたまに便に血が混じる。4ヶ月検診では回数が多かったりすると切れることがあると言われた。ここところ夜泣きが激しい。たまたま1時間おきに泣いたりする(2回位)。子供と接する時どんな風にならばいいのか分からない。
26	肌が弱く、6ヶ月頃から顔の赤みがひどい。鼻水がつまり、吐きやすい。
27	子供一人の時は理想の育児を目指すが、それなりに楽しく育児が出来たが、二人目が出来てからは、毎日イライラして長男(まだ2歳半)に手をあげる事が多くなり、周りにも自分にもイライラをぶつけてしまう事がある。周りからは二人目は楽と言われるが、全くそうは思えない。よく下の子は泣いていては放つとして、上の子をみてあげなさいと言われるが、どうしても泣きつはなしの次男を放っておかず、長男を我慢させてしまう。周りから育児のアドバイスを受けても素直に聞けない。
28	今のアンケート対称の子は二人目なので特に気になったり、不安になることは無い。夜泣きはあるが、上の子の方がひどくて、いつ終わるか分からない不安から大変に感じていたもので、さほど辛く感じることは無い。上の子の時とは全く何でも不安になつたりはしてはいたが、子育ては楽しくやっていた。周りに先輩がいたのが大きかったと思う。夫は今でいうキレやすい性格で、怒つたりイライラしたりすこいけんまくで怒鳴ってくるので、それが子供の育って行く中で、どう影響するか心配。上の子は目の前でその光景を何度も見ているせいなのか、納得のいかないことがあると周りの人が驚く位すこい泣き方をするのでどうしようかと思う。下の子は二人目のせいとか、とても人なつこく、特に困難は感じず子育てできている。
29	なかなかママ友達が出来ず、子供同士遊ぶことも無いため、幼稚園に行つた時など上手く輪の中に入つていけるか心配。友達(母親)が出来ず、いつも一人で悩んでいる事が多い(手を上げてしまふ事が多い)。少しでも気分転換をしたいので友達が欲しいが、なかなかうまくいかない。
30	生後4ヶ月で職場復帰をする予定だったが、夫の強い希望で生後9ヶ月(この4月)で復帰する予定。両立できるかが心配。サークルなどで出会うお母さんは専業主婦が多いので子供を預けて働くことに少し罪悪感が出てきた。しかしこのまま育児に専念するのも私には向いていないと感じる。保育所がまだ決まっていないので、断乳、離乳食などどうしたらいいのかわからない。職場復帰を控えたお母さんとも話してみたい。
31	4月から上の子と共に保育所に入所希望中だが待機児童が多く、入所できるのか心配。通勤時間も長く、早朝から夜間まで所ですごすことになり、子供の発音や成長をゆとりを持ってみれないのが残念。また子供が犠牲になる事件が多すぎて、目の届かない所での子供の安全に対して不安。
32	生後まもなくから顔、体中に湿疹が出て、卵と小麦の食物アレルギーだと判明。両親、家系にはアトピーの者がいないので落ち込みが大きかった。悪戦苦闘しながら1才を過ぎて落ちてきたが、具体的なことを相談できる公共の窓口があればいいのにと何度も感じた。

表11-4

ケース番号	困っていることや心配なこと
33	生まれた時からよく吐く。現在7ヶ月になってもよく吐くため心配である。夜中何度も起きる。おなかが減っている訳でもないのに寝心地が悪いのかと思ってしまう。
34	三人共赤ちゃんの時、夜中に何回も起きて朝まで熟睡しない。
35	殆ど指しゃぶりをしている。
36	自分で何でもやりたがる。出来ないとき泣き叫ぶ。
37	あえて言うなら、生後2ヶ月で夜7～9時間寝るリズムが出来ているが、夏は脱水にならないか心配。
38	現在8ヶ月の子については特に心配な面は無いが、長女(3才7ヶ月)が声を出して泣かなくなったり、黒と赤の色が好きで他の色をあまり使わないので心配している。発達としては同年代の子と変わらないと思われ。今回の調査と直接関係は無い事だが、よく産後の気分の浮き沈みなどを保健所などでチェックしているが、私の場合、妊娠中の気分の低下が辛かったので、妊婦への精神的フォローも必要だと思ふ。
39	母乳ばかりで離乳食をあまり食べない。未だに夜何度も起きて、生活リズムが整わない。
40	上の子の扱いについては悩むこともあるが、下の子はまだ赤ちゃんなので、楽しく育児ができています。
41	うちの場合よく「手のかからない子」と言われる。今は楽しいが、最初の頃は自分なりに慣れず大変だったので、周囲の一言で腹が立ったりイライラしていたように思う。特に心配なことは無いが、社会的に子供を狙った事件が多すぎるので、これから先の事を考えると心配になる。住んでいる地域に公園が殆どないので、春からどこに連れて行こうか悩んでいる。
42	おもちゃで遊んでいて、思い通りに繋がったり離したり(組み立てブロック等)できないと怒っておもちゃを投げ出したりすることがある。ある程度言っていることを理解しているのに、悪い時には「ダメ！」「メッ！」などと叱るが、まだあまり怒ったりしない方がいいのかどうかどうかが悩む。

表11-5

ケース番号	困っていることや心配なこと
43	食が細い。おっぱいが無いと寝ない。
44	下の子は上の子の子育てで「だいたいこんなもの」と一歩引いて物事を考えられるが、上の子(6歳)には、どう叱るべきか、どの程度厳しくしてどれだけ甘くしてやるか、さっばり分らない。恐らくその時の私の気分でムラのある叱り方をしていてのだからと思う。あまり私の言葉を受け止めていない気がする。
45	上の子に厳しく当たり過ぎていて気がする。下の子は慣れもあり、今のところあまり悩んでいない。
46	夜8時過ぎに寝るが、12時までには2回程突然泣き出す。2時・6時頃に泣くような声を出し、私自身起きていてるため睡眠時間がとれず体調がおもわしくない。
47	食物アレルギーがあり、母乳なので母子共に完全除去中。通院、アレルギー用食品や薬などお金がかかるので、せめて食事に補助金を希望。自分のストレス発散をしたいが面白い場所が無い。このような立場の身でも利用しやすいように公民館や図書館をもっと便利にしてほしい。災害時用の備蓄米にアレルギー用も置いて欲しい。将来、学校給食も心配。
48	今まで母乳のみだったので粉ミルクを飲むのを嫌がる。母乳はそろそろ栄養が無いと言われているので止めたいたいが粉ミルクを飲まないで栄養面が心配。

A地域 育児グループの特徴

グループ番号	配布数	有効回答数	発足のきっかけ	発足からの月数	参加登録数	活動時間	頻度(月)	活動内容	平均参加組数	運営方法	専門職種	助成金
1	16	10	公民館主催の赤ちゃん交流会の講座のあと、お母さん同士のグループ作りがきっかけで	78	25	10:00～12:00	2	手遊び、ふれ合い遊び、季節の行事(七夕、クリスマス等)、フリートーク、誕生会等	20	全くの自主型	保育士	無
2	8	7	農地を住宅地に変え、新しいアパートやマンションが建ち、若い世帯の転入が増えたが児童公園等子どもを遊ばせる場所・集える場所が近場に無かった母親からの要望があった	70	10	10:00～12:00	1	フリートーク、健康相談、絵本読み聞かせ、赤ちゃん体操(年3回)、親子あそび(唄、手遊び等年1回)	8	保健センターなど行政主導型	保健師	無
3	6	4	平成13年10月に、妊婦さんと赤ちゃんを育てるお母さんの講座(3回コース)を受講されたメンバーで発足	51	23	10:00～11:30	2	赤ちゃん体操、クリスマス会、お誕生会、フリートーク、身体計測、育児のお話、育児相談	10	全くの自主型	保健師	有
4	2	4	平成9年度より試行的に中央部の女性センターと久代の2ヶ所で始めたが、部屋の借用の件で女性センターより出稼家公民館に移る	96	10	10:00～11:30	1	フリートーク、手遊び、赤ちゃん体操、読み聞かせ	7	保健センターなど行政との協同型	保健師・ボランティア 助産師	無
5	10	6	要望をきっかけに始まる	101	48	10:00～11:30	2	身体測定、赤ちゃん体操、絵本の朗読、紙芝居、育児相談、勉強会、フリートーク等	14	保健センターなど行政との協同型	保健師・栄養士・調理師	有
6	4	2	平成11年度より開始した赤ちゃん交流会を会館創設とともに加茂(地区名)に平成13年度より移行させて発足。赤ちゃん交流会はPHNの呼びかけでボランティアさんが集い発足となる	57	20	10:00～11:30	1	ピアカウセンリング、赤ちゃん体操、身体計測、育児相談	13	保健センターなど行政主導型	保健師	有
7	8	6	地域での必要性は感じていたが公民館を借りるにはグループ登録が必要で、母親の負担が大きくなるので、公民館で登録せず利用できるよう配慮してもらうことになったので発足	84	未回答	10:00～12:00	2	フリートーク、手遊び、赤ちゃん体操、絵本読み聞かせ	15	保健センターなど行政との協同型	保健師・助産師	無
8	10	3	妊婦や赤ちゃんのお母さんに広く社会教育の場として、また母子保健・育児支援の場として身近な公民館で広く展開するため	72	10	10:00～12:00	1	育児相談、フリートーク、赤ちゃん体操(3～4ヶ月に1度)	10	未回答	保健師	無

B地域 育児グループの特徴

グループ番号	配布数	有効回数	発足のきっかけ	発足の月数	子どもの対象年齢(歳)	活動時間	頻度(月)	活動内容	平均参加組数	運営方法	専門職種	助成金
11	6	5	主任児童委員とすまっこサポーターとで立ち上げる	27	3	10:30~11:30	1	自由遊びの後、親子体操やリズム遊び、クリスマス会等のプログラムを行う	10	保健センターなど行政との協同型	保健師・保育士・音楽療法士	有
12	6	4	すまっこサポーターで立ち上げる	不明	3	10:00~11:30	2	自由遊びの後、親子体操やリズム遊び、クリスマス会等のプログラムを行う3B体操やクリスマス会などの行事を行う。その後、お茶タイムがあり、自由遊びの時間をとっている	40	保健センターなど行政との協同型	保健師・保育士・音楽療法士	有
13	6	6	未回答	38	3	10:00~11:30	1	自由遊びを30分程行った後、わらべ歌で親子遊びをし、その後、季節の風物詩や伝統的な昔遊びなどを取り入れたプログラムを実施	40	保健センターなど行政との協同型	保健師・保育士・音楽療法士	有
14	6	5	すまっこサポーターが立ち上げる	41	2	10:00~11:30	2	自由遊びの後、お話の会や親子体操、クリスマス会等のプログラムを行う	30	保健センターなど行政との協同型	保健師・保育士・音楽療法士	有
15	6	5	すまっこサポーターとして立ち上げた	40	3	10:00~11:30	1	自由遊びの後、3B体操やクリスマス会等のプログラムを行い、その後お茶タイムをとる。自由遊びの後、解散となる	40	保健センターなど行政との協同型	保健師・保育士・音楽療法士	有
16	6	0	すまっこサポーターが立ち上げる	31	3	10:00~11:40	1	自由遊びの後、親子体操や、絵本の読み聞かせ、クリスマス会等のプログラムを行う	10	保健センターなど行政との協同型	保健師・保育士・音楽療法士	有
17	6	5	須磨区が認定するすまっこサポーターが中心となって立ち上げる	42	3	10:30~12:00	4	自由遊びが主。お母さんが自由にしゃべりできるようなプログラムは設けていないが年に数回、3B体操やクリスマス会等の行事を設けている	30	保健センターなど行政との協同型	保健師・保育士・音楽療法士	有
18	6	0	すまっこサポーター研修後、サークルを立ち上げることになった	14	設定無し	11:00~16:00	4	自由遊び、親同士のおしゃべり	10	保健センターなど行政との協同型	保健師・栄養士	有
19	6	3	すまっこサポーター研修後、サークルを立ち上げることになった	31	設定無し	10:30~12:00	1	親子体操、人形劇	15	保健センターなど行政との協同型	保健師・栄養士	有
20	6	0	「母と子のつどい」を引き継いで「すまっこあひる」として	32	設定無し	10:30~12:00	1	ふれあい遊び	45	保健センターなど行政との協同型	保健師・栄養士	有
21	6	1	すまっこサポーター研修後、サークルを立ち上げることになった	38	設定無し	10:30~11:30	1	体操、おもちゃ作り	10	保健センターなど行政との協同型	保健師・栄養士	有
22	6	3	すまっこサポーター研修後、サークルを立ち上げることになった	11	設定無し	10:00~11:30	1	創作、季節のイベント	15	保健センターなど行政との協同型	保健師・栄養士	有
23	6	1	すまっこサポーター研修後、サークルを立ち上げることになった	36	設定無し	10:30~12:00	1	リズム遊び、読み聞かせ	20	保健センターなど行政との協同型	保健師・栄養士	有
24	6	2	すまっこサポーター研修後、サークルを立ち上げることになった	37	設定無し	10:00~11:30	1	母親同士の話し合い、製作	6	保健センターなど行政との協同型	保健師・栄養士	有
25	6	0	北須磨保育センターが開設したサークルを引き継いで	67	設定無し	10:00~12:00	1	創作活動、リトミック遊び、絵本の読み聞かせ	10	全くの自主型	無	有
27	6	3	すまっこサポーター研修後、サークルを立ち上げることになった	19	設定無し	10:00~11:30	1	創作、リズム遊び	30	保健センターなど行政との協同型	保健師・栄養士	有
28	6	5	すまっこサポーター研修後、サークルを立ち上げることになった	17	設定無し	10:00~11:30	1	体操、うたあそび	25	保健センターなど行政との協同型	保健師・栄養士	有
29	6	5	未回答									

グループ番号	配布数	有効回答数	発足のきっかけ	発足からの月数	参加登録数	子どもの対象年齢(最高)	活動時間	頻度(月)	活動内容	平均参加組数	運営方法	専門職種	助成金の有無
102	3	1	未回答										
105	5	0	すこやか学習センターで同じ年齢の子どものグループがそのままサークルを作った	41	13		10:30～ 12:00	4	あいさつ、手遊び、絵本や紙芝居、工作、その他季節の行事など	6	保健センターなど行政との協同型	保健師・栄養士	無
106	5	2	姫路市のすこやか学習センターで同期の2グループがサークルを結成。遊び場が欲しかったため	23	7		10:00～ 12:00	2	すこやかセンターの一時保育室でおもちゃ遊び(決まった内容は無い)	4	全くの自主型	無	無
107	3	3	コープこうべのインターネット掲示板「ママ友募集」をきっかけにオプ会からサークルを作ることになった	4	8		14:00～ 16:00	2	情報交換、保育士や教員をめざす学生との交流、誕生会や季節の行事	6	全くの自主型	無	無
109	5	5	英会話学校へ通わせ始めた時に週1回の学習では物足りなく感じ、親同士話し合い英語サークルとしてスタート	48	7		10:00～ 12:00	1	上の子供がサークルを卒業してからは英語活動は休止中。季節の行事や誕生日会、施設見学等	6	保健センターなど行政との協同型	保健師・栄養士	無
110	3	1	助産婦さんの声かけと、サークルメンバーの友人・知人の集まり(行政との関連性はなし)	15	20		10:00～ 13:00	4	工作、お絵かき、絵本読み聞かせ、親子体操、粘土遊び、公園遊び、消防見学、クッキング、勉強会(栄養、ベビーマッサージ、親業等)、自然遊び、季節のイベント	12	保健センターなど行政との協同型	保育士・栄養士・助産師	無
111	5	4	10年以上たっており当時から知る人は居ないが、8年たつ参加者によると「自分の手で子育てを」との思いからとのこと	180	18	4	10:00～ 12:00	4	親子体操、手遊び、絵本の読み聞かせ、公園遊び、すこやかセンターにて製作、遠足、消防署見学、芋掘りなど	7	保健センターなど行政との協同型	保健師・栄養士・看護師・教師	無
112	3	0	自分と我が子の友達作り。周囲からの要望もあって立ち上げました	84	18			4	わらべ歌、リズム体操、指・手遊び、絵本の読み聞かせ、人形劇、製作、絵画、誕生会(2～3ヶ月に1回)、子育て懇談会、公園あそび、クッキング、施設見学、講座(食育等)	16	全くの自主型	保健師・栄養士	無

グループ番号	配布数	有効回答数	発足のきっかけ	発足からの月数	参加登録数	子どもの対象年齢(最高)	活動時間	頻度(月)	活動内容	平均参加組数	運営方法	専門職種	助成金の有無
41	10	2	主任児童委員活動からアドバイスやカウンセリングが出来るスペースの必要性を感じ、開放した	12	45	6	10:00～16:00	土日以外毎日	リフレッシュエアロビクスや造形の会などサークル活動や、子育て相談、フリースペース、自由に遊べる場所	6	全くの自主型	保健師・保育士	有
42	10	4	地域での子育て中の親子の居場所作り	54	120	6	10:00～12:00	4	親子のコミュニケーションの場、仲間作りの場、自由に過ごせる場所	25	全くの自主型	保健師・保育士	有
43	1	1	町内にあった公立幼稚園が閉園することになり、児童館も遠く、幼い子を持つ親の交流の場がほしかったから	84	20	設定無し	10:30～12:00	4	親子で一緒に時間を楽しむ、母親のパワーアップ学習会、情報交換、季節の行事にちなんだ遊び、公園遊び、落ち葉焚き等(今しかできない子供ともの時間を有意義に)	12	全くの自主型	無	有
44	10	5	北区保健部から地域の民生委員への要望があり、ボランティアを集め発足したと聞いています	60	65	3	10:00～11:30	2	ボランティアのお母さんによる手遊びや歌、ゲーム、工作遊びの他、保健師さんや栄養士さん、ダンスや体操のインストラクターや消防士さんに来ていただいて講習金を開いたり、季節の行事にあわせたイベント等	23	全くの自主型	保健師・保育士・栄養士	有
45	10	1	以前から親子の居場所の必要性(交流)を感じていたところ、行政からの声かけもあり発足した	13	50	4	10:00～11:30	1	音楽遊び、季節のイベント、親子遊び、研修的なものなど	26	全くの自主型	保健師・保育士・主任児童委員・民生児童委員	有
46	10	5	子育て支援事業のひとつとして、民児協が主催	48	30	3	10:30～12:00	2	フリーワーク中心。保健師・歯科衛生士・栄養士・教員・救命士・警察官の講演など	20	全くの自主型	無	有
47	20	5	行政子育て支援室からの要望により	28	自由参加	6	10:00～12:00	1	歌遊び、工作、育児のお話、情報交換、季節の行事にちなんだ遊び	30	保健センターなど行政との協同型	保健師	有
48	20	3	H12年12月に特定非営利活動法人輝すてつぶ設立。目的は福祉活動及び子育て支援等事業を行い、誰もが安心して住むことのできるコミュニティづくりを寄与すること	60	68	4	10:00～12:00	2	働くお母さんの手助けではなく、家庭で毎日子どもと向き合っていて生活しているお母さんの支援をし、同じ立場で悩みを打ち明けられることにより安心して子育て出来る場を提供している。登録制ではないので誰でも参加できる	20	保健センターなど行政との協同型	保健師・保育士・栄養士	有
52	10	3	地域での子育てを見守り、育児の孤立化や不安、虐待を防止、交流の場を作る。保健師からの紹介	58	30	3	10:00～12:00	1	毎月1回の行事を中心に、1年間第2金曜日の2時間程度を母子で遊ぶ。さらに、縁つきクラブは自由遊び、子育て相談(主任児童委員)第4金曜日は10～12時	15	全くの自主型	保健師・保育士・栄養士・心理士	有
53	1	1	主任児童委員としての活動の一つとして行政より働きかけがあったため	32	34	2	10:00～12:00	2	自由遊び(親子同士の交流)、音楽に合わせた運動、器具を使った運動、手作りおもちゃ、絵本の読み聞かせ、栄養・健康指導	13	全くの自主型	保健師・歯科衛生士	有
54	12	1	児童館の指導員の方より提案いただき、ふれまち協主催することに決定。当初は県からも御成もらう	26	20	1	10:00～12:00	1	お母さん同士の交流目的。0歳児対象なので、子どもの動きも少なく、お母さん同士話やすく、賑やか過ぎにはならない。最後にコーヒータイム	15	保健センターなど行政との協同型	保健師・栄養士・歯科衛生士・消防士	有

Ⅲ. おわりに

核家族化が進み、育児不安・ストレスを抱えながら育児をしている多くの母親と接し、母親のつらい気持ちや不安感を感じてきたが、育児グループに参加している母親は、元気で明るい印象をもった。今回の調査の結果からも育児グループの効果は心理面で大きく、多くの母親への育児支援の役割を果たしていることがわかった。育児グループのあり方や運営についても自主グループと協同型グループでの効果についてはあまり明確にできなかったため、今後はさらにどのようなグループのあり方や運営について研究を重ねていきたい。育児不安・ストレス測定尺度および関連要因測定尺度の試案ができたので、さらに精度をあげていき、今後の育児支援に役立てていきたい。

付録

文 献

- 1、 大西由希子 (1999). 産後の母親の育児不安及び育児に対する感情とその影響要因 4ヶ月育児の現状から今後の助産婦の援助を考える. *看護総合科学研究会誌*2(2)、24-37
- 2、 加藤和美 (2000). 地域(都市化進行・農山村)及び家族形態間比較からみた母親の育児不安に関する検討～性別役割観・伝統的規範へのとらわれに重点をおいて～. *公衆衛生研究*49(4)、380
- 3、 北村愛子、佐鹿孝子、大久保ひろ美、佐藤はつ子 (2000). 父親の育児参加と母親の育児不安との関連 204組の夫婦のアンケート調査より. *山梨県立看護大学短期大学部紀要*5(1)、61-76
- 4、 清水嘉子、西田公昭 (2000). 育児ストレス構造の研究. *日本看護研究学会雑誌*23(5)、55-67
- 5、 荒木美幸、大石和代、岩木宏子、他4名 (2001). 育児期にある母親に対するソーシャルサポートと育児ストレスとの関連. *長崎大学医療技術短期大学部紀要*14(1)、89-95
- 6、 山岡テイ (2001). 育児情報の活用意識・行動と育児不安の関連性. *チャイルド・ヘルス*4(12)、56-59
- 7、 田野稔郎、高橋雄一、森田秀子 (2001). 育児不安・困難に関する幼稚園児の母親へのアンケート調査. *神奈川県精神医学会誌*51号、57-62
- 8、 吉田弘道、山中龍宏、巷野悟郎、他3名 (2001). 2人目の子どもを育てている母親は育児不安が軽いか. *チャイルド・ヘルス*4(10)、766-769
- 9、 植村裕子、三浦浩美、野口純子、他4名 (2002). 香川県における3歳児をもつ母親の育児ストレス構造—育児ストレス尺度を用いて—. *香川母性衛生学会誌*2(1)、62-68
- 10、 奥石薫 (2002). 育児不安に影響を与える要因についての縦断的研究—予期不安尺度と期待感尺度の作成—. *小児保健研究*61(4)、686-691
- 11、 八重樫牧子 (2002). 母親の子育て不安の程度と母親クラブ活動との関連性に関する考察. *川崎医療福祉学会誌*12(1)、45-57
- 12、 長坂典子 (2002). 【総説】家庭という“密室”での育児. *こころの科学*103(5)、50-56
- 13、 石橋君子、大坪智美、正崎仁恵、他7名 (2002). 夫婦の意識が相互の育児不安に及ぼす影響. *母性衛生*43(4)、541-548
- 14、 大島祐子、櫻井香織、妹尾悦子、他3名 (2002). 母親が育児に対して感じる育児ストレスへつながるマウス要素. *茨城県母性衛生学会誌*22号、50-53
- 15、 中添和代、舟越和代、白石裕子 (2003). 働く母親の育児不安 夫の育児サポート意識との関連. *地域環境保健福祉研究*6(2)、39-46
- 16、 田原卓浩 (2003). 多文化子育て調査報告書 日本の母親の育児不安と育児情報に関する子育て調査. *チャイルドヘルス*6(2)、144-146
- 17、 清水嘉子 (2003). 母親の育児に対する信念と育児ストレスの関係. *小児保健研究*62(5)、558-568
- 18、 三国久美、深山智代、広瀬たい子、他4名 (2003). 1歳6ヶ月児を持つ両親の育児ストレスとコミュニケーション. *日本看護研究学会雑誌*26(4)、31-43
- 19、 嘉数朝子、服部章吾、玉城三枝子、他22名 (2003). 沖縄県の3～5ヶ月児を持つ母親の育児不安 (1) 母親の属性と夫婦関係との関連で. *沖縄の小児保健*30号、3-9

20、玉城三枝子、古謝タカ子、照屋清子、他 22 名 (2003). 3~5 か月児を持つ母親の育児不安Ⅱ—母親の育児上の心配事と保健医療関係者の育児支援の検討—。 *沖縄の小児保健* 30 号、10-17

21、相墨生恵、荒木暁子、兼松百合子、他 3 名 (2003). 岩手県における育児ストレスの変化とそれにかかわる要因 3 年前の調査との比較から。 *岩手県立大学看護学部紀要* 5 巻、1-12

22、巽あさみ、大西文子 (2003). 乳幼児を持つ母親の C.A.S.による精神健康度評価 「安定群」「高不安群」の比較とその関連要因。 *医学と生物学* 146(4)、51-56

23、山下美弥、尾方美智子 (2003). 子どもの発達段階別にみた母親の育児不安、自我状態 乳児期と幼児期の比較を通して。 *香川医科大学看護学雑誌* 7(1)

24、谷本公重、山下美弥、佐々木睦子、他 7 名 (2003). 幼児をもつ母親の育児不安と対処行動。 *香川医科大学看護学雑誌* 7(1)、65-72

25、Wind,T.W.,Silvern,L.(1994)Parenting and family stress as mediators of the long-term effects of child abuse. *Child Abuse & Neglect* 18(5):439-453

26、Fink,S.V.(1995)The influence of family resources and family demands on the strains and well-being of caregiving families. *Nursing Research* ;44(3):139-146